

1897-1945 年における在タイ日本人の人数、 職業の推移： 在バンコク領事の年次報告をもとに

村嶋英治[†]

Japanese Population and Their Occupations
in Thailand from 1897 to 1945:
Based on Annual Reports of Japanese Consul in Bangkok

Eiji Murashima

近代における在タイ日本人の人数、職業等は、日本外務省が明治30年（1897年）から毎年在バンコク領事に調査を命じて提出させた報告書によって知ることができる。しかし、1897年にバンコクに日本領事館が開設されて以来1941年に至る期間において、領事が毎年報告した在タイ日本人の職業別人口調査を、領事報告書原本に即して一つにまとめた資料は未だ存在しない。

本稿は、この欠落を埋め、日タイ関係史研究の基礎資料として多少なりとも資することを目的とする。

元来、本稿は拙著『南北仏教の出会い：近代タイにおける日本仏教者、1888-1945』（早稲田大学アジア太平洋研究センター、リサーチ・シリーズ第7号、2020年）の付属資料として作成したものであった。バンコク領事の報告書には、年によっては在タイ日本人僧侶数や宗教関係者数が記載されていることがあるからである。しかし、記載がある期間は限られている。そこで、上記拙稿から独立させて本稿として刊行することとした。

在バンコク領事による、在シャム（タイ）日本人の職業別人口年次報告は、外交史料館の次の二件のファイル中に見出すことができる。即ち、明治・大正期の報告は、外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件（全32冊）」の中に在り、昭和期の報告は、外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件（全19冊）」の中に在る。前者はアジア歴史資料センターによりインターネット上に公開されている。一方、後者は前者と同種のものであるが、個人情報が含まれているという理由でインターネット上には公開されていない。但し、外務省は、明治40年12月末日現在の各地の領事報告を手始めとして集計表の刊行を続けた。明治40年の最初の刊行物から昭和15年までのものは、2002年に不二出版により『海外各地在留本邦人職業別人口表』（全5巻）として復刻されている。

明治・大正期（1897年から1926年までの30年間）においては、在バンコク領事が交代すれば、

[†] 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

報告書の様式、精粗も変化しただけではなく、外務省が示した職業分類の基準も何度も変更されているので、本稿に掲げる各報告書（第1表～第29表）の間には一貫性は存在しない。一方、昭和期（1927年から1941年の期間）については、外務省が定めた60種の職業分類が変更されることはなかったもので、本稿の第30表～42表は同一様式で一貫している。

さて、外務省が総ての出先公館に在留日本人員数の報告を初めて命じたのは、明治18年である。即ち、外務省統計掛は、明治18年12月末現在の分から、各在外日本公館に在留日本人員数を雛形（各男女別に、公用、官費留学、私費留学、商用、漁業、職工、雇奴婢、遊歴、其他諸用の9カテゴリーに分けたもの）に従って報告させた（外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第一巻（明治19年～24年））。

シャム国（タイ国）に関しては、公使館が開かれ領事が置かれたのは明治30年5月であるので、明治30年12月末現在の領事報告書が最初の報告である。明治30年末から明治35年末までの5年間（第1表～第5表）は、明治18年に外務省が命じた上述雛形に拠っている。

第1表 シャム明治30年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商業 | 農業 | 雑 | 計 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| 男 | 4 | 3 | 17 | 0 | 8 | 32 |
| 女 | 0 | 0 | 3 | 0 | 19 | 22 |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第三巻）

第2表 シャム明治31年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商業 | 雑 | 計 | 男女合計 |
|---|----|----|----|----|----|------|
| 男 | 2 | 3 | 20 | 11 | 36 | 60 |
| 女 | 0 | 0 | 5 | 19 | 24 | |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第三巻）

第3表 シャム明治32年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商用 | 雑 | 計 | 男女合計 |
|---|----|----|----|----|----|------|
| 男 | 5 | 5 | 30 | 12 | 52 | 76 |
| 女 | 1 | 0 | 4 | 19 | 24 | |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第三巻）

第4表 シャム明治34年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商用 | 其他諸用 | 計 | 男女合計 |
|---|----|----|----|------|----|------|
| 男 | 6 | 3 | 21 | 18 | 48 | 71 |
| 女 | 1 | 0 | 4 | 18 | 23 | |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第四巻）

第5表 シャム明治35年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商用 | 其他諸用 | 計 | 男女合計 |
|---|----|----|----|------|----|------|
| 男 | 4 | 3 | 39 | 19 | 65 | 91 |
| 女 | 1 | 0 | 6 | 19 | 26 | |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第四巻）

外務省が示した雛形に従ってバンコク領事を作成した，第1～第5表で「雑」或は「其他諸用」の欄には，女性の数が多いが，その殆どは醜業婦（当時の日本政府が公式に用いた用語）である。たとえば，在盤谷一等領事国府寺新作の報告によれば，明治31年（1898年）末の在タイ日本人醜業者は，女15人，男2人である（外務省記録4.2.2/99「海外に於ける本邦醜業婦の員数及其状況等年二回報告方訓達一件」）。醜業婦（所謂からゆきさん）が多かったシンガポールやウラジオストックの邦人人員表でも，次のような構成になっている。即ち，シンガポールの明治22年（1889年）12月31日現在の報告では，公用 男1女0，留学 男0女0，商用 男3女0，其他諸用 男12女186，合計男16，女186（外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第一巻）であり，ウラジオストックの明治24年（1891年）12月31日現在の報告では，公用 男4女2，留学 男10女0，商用 男22女8，其他諸用 男205女266，合計 男241女276（外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二巻）である。ウラジオストックでは其他諸用に男の数も多いのは，鉄道建設工夫などの出稼労働者が多かったからである。

なお，明治29年12月31日現在のハワイの在留本邦人は，公用 男4女2，留学 男0女0，商用 男508女182，其他 男20001女5201，合計 男20513女5385（外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二巻）と桁違いに多いが，ハワイの其他は農業移民である。

第6表（1903年）は，上記第1表～第5表（1897年～1902年）に比して，調査時期が年央の6月末に変わり，戸数という新項目が設けられただけでなく，バンコク以外の居住地（シーラチャ，シンゴラ）も加えられ，また職業分類も細かくなった。職業として僧侶が登場するのも，第6表が初めてである。この表の1名の僧侶（1戸とは見做されていない）は，ワット・サケートに住んでいた概旭乗を指すものと思われる。

更に，日本人の公共団体として1903年6月に日本人倶楽部が存在していることも報告されている。日本人倶楽部は，タイ国日本人会の前身である。ところが，日本人倶楽部は，その後の報告書には一切登場しない。

また，第6表において，初めて台湾人の項目が設けられ，台湾人総数が記載されている。但し，台湾人は職業別には分類されていない。

第6表 シャム明治36年6月末現在在留邦人人員表

| 職業別 | 戸数 | 男 | 女 | 男女合計 |
|--------|--------|----|----|------|
| 盤谷 | | | | |
| 雑貨商 | 3 | 5 | 3 | 8 |
| 建築業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 写真業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 鼈甲職 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 理髪職 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 画工 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 僧侶 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 医師 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 材木商 | 2 | 5 | 0 | 5 |
| 遊技場 | 3 | 3 | 0 | 3 |
| 旅人宿 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 洋酒小売 | 2 | 0 | 2 | 2 |
| 暹政府雇 | 5 | 8 | 4 | 12 |
| 麦稈帽子商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 漁業 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 被雇人 | 0 | 9 | 1 | 10 |
| 雑 | 1 | 14 | 10 | 24 |
| 官吏 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 台湾人 | 5 | 9 | 0 | 9 |
| シーラチャ | | | | |
| 医師 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| シンゴラ | | | | |
| 雑 | 1 | 2 | 2 | 4 |
| 一、公共団体 | 日本人倶楽部 | | | |

(出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第五巻)

第6表(1903年)の様式は、第7表(1904年)及び第8表(1906年)には継承されず、再び第5表(1902年)までの簡単な職業分類に戻っている。第7表に見るように、1904年末の邦人合計は109人であるが、日露戦争を挟んで2年後の1906年末(第8表)には、173人となり、大幅に増大している。

第7表 シャム・バンコク明治37年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商用 | 其他諸用 | 計 | 男女合計 |
|---|----|----|----|------|----|------|
| 男 | 5 | 1 | 43 | 27 | 76 | 108 |
| 女 | 2 | 0 | 11 | 19 | 32 | |

シヤム・シーラーチャー明治37年12月31日現在在留邦人人員表

| | 公用 | 留学 | 商用 | 其他諸用 | 計 | 男女合計 |
|---|----|----|----|------|---|------|
| 男 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 女 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

(出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第五巻)

上記シーラーチャーの其他諸用の男性は、同地の病院に雇用されている日本人医者であろう。

第 8 表 明治 39 年 12 月現在在留邦人人員表（男，女の順）

| | 公用 | | 留学 | | 商用 | | 其他諸用 | | 計 | 男女合計 | |
|-------|----|---|----|---|----|----|------|----|-----|------|-----|
| 盤谷 | 3 | 1 | 1 | 0 | 65 | 21 | 35 | 37 | 104 | 59 | 163 |
| シラーチャ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| コーラット | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| ブリーラム | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 計 | 3 | 1 | 1 | 0 | 65 | 21 | 44 | 38 | 113 | 60 | 173 |

（出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第五巻）

第 9 表（1907 年）では，職業分類が再び詳細なものに戻った。注目すべきことは，バンコクに 6 人の日本人僧侶がおり，その何人かは 1 戸をなしていること，地方のラブリー（ラートブリー）にも一人の日本人僧侶が在留していることである。前者の 1 戸は，釈興然師の一行で，彼らが 1 戸とカウントされたのは，タイの寺院ではなく寺院外に家屋を借りて居住していたからであろう。後者は，シャム湾西岸の華僑の多い地域に，南中国から渡来して布教を試みた真宗大谷派の布教師である。また，東北タイのコーラット（コーラート）及びブリーラムの日本人は，タイ農業省蚕業局に雇傭されている技術者である。また，台湾人の項目も復活している。

外務省では，明治 40 年 12 月末日現在分より海外各地の領事から報告されてきた本邦人職業別表総てを 1 枚紙の大きな表に集計して刊行を開始した。最初の刊行物である，外務省通商局『海外各地在留本邦人職業別表（明治 40 年 12 月末日現在）』では，職業を 106 に分類して掲載しており，翌年の外務大臣官房報告課『海外各地在留本邦人職業別表（明治 41 年 12 月末日現在）』では，職業を 105 に分類して各国地域別に人数（男女別）を書き込んでいる。さらに，第 3 回目の刊行物である外務大臣官房報告課『海外各地在留本邦人職業別表（明治 42 年 12 月末日現在）』では，職業を 112 項目に分類し，各国地域別に人口数を記している。職業分類項目の数のみならず職種名も毎年少しずつ変化している。

これは，外務省が職業分類項目を指定せず，各領事に自由に職業分類をさせていたためである。それは，1909 年 6 月 25 日付けで外務大臣が，チリ公使やバタビヤ領事に宛てた「在留本邦人職業別表提出方の件」で，前年の報告の提出を催促した際に付された雛形が，職業分類の基準を示さず，ただ「帝国有在留地数ヶ所あれば各其地名を肩書と為し職業並員数を別記すること」と指示していることから明らかである。また，上記「在留本邦人職業別表提出方の件」では「本邦人公設建築物」，「公共団体名」についても報告することを求めている（外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第七巻の 1，統計表提出方催促の件）。

なお，外務省が初めて刊行した明治 40 年 12 月末日現在の表から，昭和 15 年までのものは，前述の通り 2002 年に不二出版により『海外各地在留本邦人職業別人口表』（全 5 巻）として復刻された。但し，本稿の各表は，外務省の刊行物ではなく，バンコク領事の報告書原本に依拠している。

第9表 明治40年12月末在留本邦人員表 在盤谷帝国領事館

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女合計 |
|-----------|----|------|------|---------|
| 盤谷 | | | | |
| 官吏 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 逓政府雇 | 4 | 7 | 7 | 14 |
| 三井物産会社支店 | 1 | 4 | 2 | 6 |
| 雜貨商 | 9 | 20 | 6 | 26 |
| 写真業 | 2 | 9 | 3 | 12 |
| 煎餅せんべい製造業 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 遊技場営業 | 3 | 8 | 4 | 12 |
| 農業 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 理髮業 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 建築業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 大工 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 洋服職工 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 医師 | 3 | 7 | 2 | 9 |
| 時計修理業 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 薬剤師 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 洋酒小売 | 4 | 0 | 5 | 5 |
| 僧侶 | 1 | 6 | 0 | 6 |
| 語学研究 | 0 | 5 | 0 | 5 |
| 雜業 | 5 | 20 | 27 | 47 |
| 実業練習生 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 商業視察 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 台湾人 | 8 | 11 | 0 | 11 |
| 計 | 53 | 121 | 60 | 181 |
| シラーチャ | | | | |
| 医師 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| コーラット | | | | |
| 逓政府雇 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| プリラム | | | | |
| 逓政府雇 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ラブリー | | | | |
| 僧侶 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 總計 | 57 | 128 | 62 | 190 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第六卷)

第10表(1908年)になると、バンコクの邦人僧侶は2名に減少したが、前年同様一戸をなしている。他方、ラートブリーには日本人僧侶はいなくなっている。

第 10 表 明治 41 年 12 月末在留本邦人員表 在盤谷帝国領事館

| 職業 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女合計 |
|--------------|----|------|------|---------|
| 盤谷 | | | | |
| 官吏 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 逓政府雇 | 3 | 5 | 5 | 10 |
| 三井物産会社支店 | 1 | 5 | 1 | 6 |
| 雑貨商 | 6 | 20 | 6 | 26 |
| 写真業 | 3 | 12 | 4 | 16 |
| 煎餅製造業 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 遊技場営業 | 1 | 7 | 2 | 9 |
| 画工 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 農業 | 1 | 4 | 0 | 4 |
| 理髪業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 建築業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 西洋料理屋 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 大工 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 医師 | 4 | 5 | 2 | 7 |
| 洋酒小売 | 4 | 0 | 5 | 5 |
| 僧侶 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 語学研究 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 実業練習生 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 雑業 | 5 | 13 | 33 | 46 |
| 洗濯業 | 1 | 5 | 1 | 6 |
| 台湾人 | 9 | 12 | 0 | 12 |
| 計 | 45 | 107 | 63 | 170 |
| シーラチャ | | | | |
| 医師 | 2 | 2 | 2 | 4 |
| コーラット | | | | |
| 逓政府雇 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ブリーラム | | | | |
| 逓政府雇 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 49 | 113 | 65 | 178 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第七巻)

第11表(1909年)では邦人僧侶は1名に減少し、独立した1戸でもなくなっている。これはタイの寺院に住んでいたためであろう。また、第11表記載の職業「洋妾」は、外務省が刊行した表には存在しないので、本省は刊行に際し「洋妾」を「雑業」の中を含める編集を行ったものと思われる。更に、第11表では「洋酒小売」に従業する女性が急増しているが、これは醜業婦の隠れ蓑である。タイ政府は「性病予防法」(1908年4月1日施行)により、バンコクの娼家、娼婦の登録を義務付け、営業に課税したが、日本人の娼家は何れも登録を拒否した。

第11表 明治42年12月末在留本邦人員表

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女合計 |
|--------------|----|------|------|---------|
| 盤谷府 | | | | |
| 官吏 | 2 | 5 | 1 | 6 |
| 暹政府雇 | 3 | 4 | 3 | 7 |
| 三井物産出張所 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 雑貨商 | 7 | 21 | 7 | 28 |
| 写真業 | 2 | 6 | 5 | 11 |
| 遊技場営業 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| 画工 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 農業 | 1 | 5 | 0 | 5 |
| 理髪業 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| 洗濯業 | 3 | 8 | 1 | 9 |
| 建築業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 医師 | 2 | 5 | 2 | 7 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 大工 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 写真材料卸商 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| 留学生 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 語学研究 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 売薬行商 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 写真行商 | 0 | 8 | 0 | 8 |
| 薬剤師 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 奇術師 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 菓子製造小売 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 洋酒小売 | 4 | 1 | 26 | 27 |
| 僧侶 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 洋妾 | 0 | 0 | 6 | 6 |
| 雑業 | 1 | 15 | 2 | 17 |
| 台湾人 | 11 | 14 | 0 | 14 |
| 計 | 46 | 118 | 59 | 177 |
| シラーチャ | | | | |
| 医師 | 2 | 2 | 2 | 4 |
| コーラット | | | | |
| 暹政府雇 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| フリーラム | | | | |
| 暹政府雇 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 50 | 123 | 61 | 184 |

(出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第八卷)

第 12 表 明治 43 年 12 月末在留本邦人員表

| 職業名 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女合計 |
|--------------|----|------|------|---------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 6 | 1 | 7 |
| 逓政府雇 | 4 | 6 | 3 | 9 |
| 三井物産出張所 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 雑貨商 | 6 | 24 | 10 | 34 |
| 写真業 | 2 | 7 | 3 | 10 |
| 遊技場営業 | 2 | 13 | 9 | 22 |
| 農業 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 理髪業 | 2 | 5 | 2 | 7 |
| 洗濯業 | 2 | 9 | 1 | 10 |
| 医師 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 歯科医 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 写真原料販売 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 仲買商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 留学生 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 語学研究 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 売薬行商 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 写真行商 | 0 | 10 | 0 | 10 |
| 大工職 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 鍛冶職 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 僧侶 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 洋酒小売 | 4 | 0 | 20 | 20 |
| 洋妾 | 1 | 0 | 11 | 11 |
| 雑業 | 2 | 9 | 3 | 12 |
| 台湾人 | 9 | 14 | 0 | 14 |
| 小計 | 46 | 126 | 64 | 190 |
| シラチャー | | | | |
| 医師 | 2 | 2 | 2 | 4 |
| コーラット | | | | |
| 逓政府雇 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 雑業 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| アイチャ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 5 | 6 | 3 | 9 |
| 合計 | 51 | 132 | 67 | 199 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第九巻)

第 13 表 (1911 年) において，初めて朝鮮人の項目が登場する。但し，台湾人と同様に，総数のみの記載であり，職業分類はされていない。

第13表 明治44年12月末在留本邦人員表

| 職業名 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女合計 |
|---------------|----|------|------|---------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 6 | 2 | 8 |
| 逓政府雇 | 4 | 7 | 4 | 11 |
| 三井物産出張所 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 雑貨商 | 6 | 28 | 10 | 38 |
| 写真業 | 3 | 8 | 3 | 11 |
| 活動写真業 | 1 | 10 | 3 | 13 |
| 農業 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 理髪業 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 洗濯業 | 1 | 7 | 1 | 8 |
| 医師 | 2 | 8 | 3 | 11 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 写真原料販売 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 仲買商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 留学生 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 実業練習生 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 語学研究 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 薬種商 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 売薬商 | 2 | 6 | 1 | 7 |
| 写真行商 | 0 | 12 | 0 | 12 |
| 大工職 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 鍛冶職 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 植木職 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 僧侶 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 洋酒小売 | 4 | 0 | 22 | 22 |
| 洋妾 | 2 | 0 | 9 | 9 |
| 雑業 | 2 | 9 | 1 | 10 |
| 台湾人 | 10 | 18 | 1 | 19 |
| 朝鮮人 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 小計 | 48 | 143 | 63 | 206 |
| シーラチアー | | | | |
| 医師 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| コーラット | | | | |
| 逓政府雇 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| アイチャ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 3 | 3 | 2 | 5 |
| 合計 | 51 | 146 | 65 | 211 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十一巻)

第11表(1909年)、第12表(1910年)、第13表(1911年)と3年続けて僧侶が1名存在したが、第14表(1912年)に示すように1912年(大正元年)12月には、僧侶の項目は消えている。僧侶の項目は1911年を最後に、姿を消し、これ以後の表に僧侶の項目は存在しない。後述のように、1920年(第23表)から1926年(第29表)までの7年間は、127職業分類が用いられ、103番目に「神道教師・僧侶・宣教師」の職種が設けられていたが、この期間の盤谷領事の報告書には、103番に該当する者は皆無である。但し、1927年(第30表)で60職業分類が採用され、その47番目に「宗教関係者」の職種が設けられた後は、殆どの年に1~3名の宗教関係者が存在する。

さて、第14表には「倶楽部書記」という職業が新設されているが、これは日本人倶楽部の書記の意味で、黄檗僧溪道元が従事していた。溪道元は前年まで唯一の邦人僧侶と分類されていたが、1912

年末には離タイが近くなり，定宿のワット・サケートを離れたものと思われる。次の第 15 表（1913 年）には，「倶楽部書記」の項目は見当たらない。

第 14 表 大正元年 12 月末日現在本邦人職業別表 盤谷領事館

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女合計 |
|---------------|----|------|------|---------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 暹政府招聘 | 3 | 5 | 3 | 8 |
| 三井物産会社出張所 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| 雑貨商 | 8 | 33 | 10 | 43 |
| 写真業 | 4 | 9 | 1 | 10 |
| 活動写真業 | 1 | 4 | 2 | 6 |
| 遊芸旅人 | 1 | 10 | 2 | 12 |
| 農業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 理髪業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洗濯業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 医師 | 2 | 5 | 1 | 6 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 写真原料商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 仲買商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 語学研究 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 売薬商 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 写真行商 | 0 | 11 | 0 | 11 |
| 大工職 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 鍛冶職 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 造花職 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 倶楽部書記 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 洋妾 | 1 | 0 | 6 | 6 |
| 洋酒小売 | 4 | 0 | 23 | 23 |
| 雑業 | 2 | 6 | 1 | 7 |
| 農業視察 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 台湾人 | 10 | 14 | 1 | 15 |
| 朝鮮人 | 0 | 6 | 0 | 6 |
| 小計 | 50 | 134 | 56 | 190 |
| ベトリウ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| バクナンポー | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| パチン | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 合計 | 54 | 142 | 57 | 199 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十二巻)

第 15 表（1913 年）からは，従来総数表示のみであった台湾籍民が，職業別でも表示されるようになった。一方，朝鮮人については，総数表示さえもなくなった。邦人の公共団体は「なし」と記載されている。現在のタイ国日本人会は，1913 年 9 月 1 日を創立日としているので，1913 年 12 月末の調査である第 15 表に，日本人会という公共団体の存在が明記されて然るべきであろう。ところが，そのような記載はなく，後続の第 16～20 の諸表においても「公共団体なし」と記されている。日本人居住者と緊密な関係にある筈の在バンコク領事が日本人会の存在を全く認識していないのは不可解である。

第15表 大正2年12月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館（丸数字は台湾籍民）

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計（含台湾籍民） |
|----------------|------|------|------|---------------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 5 | 4 | 9 |
| 会社員 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 暹国政府傭聘人 | 3 | 8 | 2 | 10 |
| 雑貨兼売薬商 | 11 | 40 | 10 | 50 |
| 雑貨商 | ⑤ | ⑨ | ① | 10 |
| 医師 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 歯科医 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 薬種商 | 1, ② | 2, ② | 0 | 4 |
| 売薬商 | 2 | 7 | 7 | 14 |
| 地方売薬行商 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 写真原料販売商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 写真業 | 4 | 7 | 2 | 9 |
| 地方写真業 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 活動写真 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 農業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 理髪職 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洗濯業 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 大工職 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 造花職 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洋酒小売商 | 4 | 1 | 22 | 23 |
| 飲料水販売 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| 菓子商 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 印刷職 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 洋服裁縫職 | 0, ① | 2, ① | 0 | 3 |
| 外国人被雇人 | 0 | 1 | 6 | 7 |
| 雑業 | 3, ② | 5, ⑤ | 1 | 11 |
| 帽子商 | ① | ① | 0 | 1 |
| 茶商 | ② | ③ | 0 | 3 |
| 小計 | 56 | 130 | 63 | 193 |
| アイチャ | | | | |
| 雑貨商 | ① | ① | 0 | 1 |
| バクナムボウ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ライオン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ランバン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| チャンタブリー | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ベトリウ | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| バナム | | | | |
| 農業 | 1 | 5 | 1 | 6 |
| チェンマイ | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| フケット | | | | |
| 売薬商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ウボン | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ベッチャブリー | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 13 | 22 | 2 | 24 |
| 合計 | 69 | 152 | 65 | 217 |

一、本邦人公設建築物 なし

一、公共団体名 なし

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四巻）

第16表 大正3年6月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館（丸数字は台湾籍民）

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計（含台湾籍民） |
|----------------|------|-------|------|---------------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 4 | 3 | 7 |
| 会社員 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 暹国政府傭聘人 | 3 | 5 | 2 | 7 |
| 雑貨兼売薬商 | 6 | 32 | 3 | 35 |
| 雑貨商 | 6, ⑥ | 16, ⑨ | 6, ① | 32 |
| 医師 | 2 | 5 | 1 | 6 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 薬種商 | ① | ② | 0 | 2 |
| 売薬商 | 1 | 3 | 4 | 7 |
| 地方売薬行商 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| 写真原料販売商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 写真業 | 4 | 11 | 2 | 13 |
| 地方写真業 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 活動写真 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 農業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 理髪業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洗濯業 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 大工職 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 造花職 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洋酒小売商 | 4 | 1 | 19 | 20 |
| 菓子商 | 2 | 2 | 3 | 5 |
| 印刷職 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 洋服裁縫職 | 1, ① | 2, ① | 1 | 4 |
| 外国人被雇人 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 雑業 | 2, ② | 7, ④ | 2 | 13 |
| 帽子商 | ① | ① | 0 | 1 |
| 茶商 | ③ | ④ | 0 | 4 |
| 彫刻業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 59 | 137 | 60 | 197 |
| アイチャ | | | | |
| 雑貨商 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| バクナムボウ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ライオン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ランバン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| チャンタプリー | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ベトリウ | | | | |
| 写真業 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| パナム | | | | |
| 農業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| チェンマイ | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ブケット | | | | |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| ウボン | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ベッチャプリー | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 14 | 20 | 1 | 21 |
| 合計 | 73 | 157 | 61 | 218 |

一、本邦人公設建築物 なし

一、公共団体名 なし

(出所：外務省記録 7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十四巻)

第17表 大正3年12月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館（丸数字は台湾籍民）

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計（含台湾籍民） |
|---------------|------|-------|------|---------------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 会社員 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 暹国政府備聘人 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 雑貨兼売薬商 | 6 | 34 | 3 | 37 |
| 雑貨商 | 6, ⑥ | 18, ⑨ | 6, ① | 34 |
| 医師 | 3 | 4 | 2 | 6 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 薬種商 | 1, ① | 2, ② | 0 | 4 |
| 売薬商 | 1 | 3 | 4 | 7 |
| 地方売薬行商 | 1 | 4 | 0 | 4 |
| 写真原料販売商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 写真業 | 6 | 11 | 3 | 14 |
| 地方写真業 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 活動写真 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 農業 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 理髪業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洗濯業 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 大工職 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 造花職 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 洋酒小売商 | 4 | 0 | 19 | 19 |
| 菓子商 | 2 | 3 | 3 | 6 |
| 印刷職 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 洋服裁縫職 | 1, ① | 2, ① | 1 | 4 |
| 外国人被雇人 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| 雑業 | 1, ② | 5, ② | 1, 0 | 8 |
| 帽子商 | ① | ① | 0 | 1 |
| 茶商 | ③ | ④ | 0 | 4 |
| 彫刻業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 62 | 139 | 56 | 195 |
| アイチャ | | | | |
| 雑貨商 | ① | ① | 0 | 1 |
| バクナムボウ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ライオン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ランバン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| チャンタブン | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ベトリウ | | | | |
| 写真業 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| バナム | | | | |
| 農業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| チェンマイ | | | | |
| 写真業 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ブケット | | | | |
| 売薬商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ウボン | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |

第17表 つづき

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計 (含台湾籍民) |
|---------|----|--------------------|------------------|--------------------|
| ベッチャブリー | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ラコン | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| シンゴラ | | | | |
| 売薬商 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| バタニー | | | | |
| 売薬商 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| 雑業 | 2 | 0 | 2 | 2 |
| 小計 | 20 | マツ 29 [27] | 6 | マツ 35 [33] |
| 合計 | 82 | 168 | 62 | 230 |
| | | (内地人 148, 台湾籍民 20) | (内地人 61, 台湾籍民 1) | (内地人 209, 台湾籍民 21) |

一、本邦人公設建築物 なし

一、公共団体名 なし

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十六巻)

第18表 (1915年) より調査日時が、12月末の年末から6月末の年央に変更された。

第18表 大正4年6月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館 (丸数字は台湾籍民)

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計 (含台湾籍民) |
|---------|------|-------|------|----------------|
| 盤谷市 | | | | |
| 官吏 | 2 | 3 | 2 | 5 |
| 会社員 | 2 | 5 | 1 | 6 |
| 暹国政府傭聘人 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| 雑貨商 | 6, ⑥ | 19, ⑥ | 10 | マツ 36 [35] |
| 雑貨兼売薬商 | 5 | 27 | 3 | 30 |
| 医師 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 薬種商 | 1, ① | 2, ② | 0 | 4 |
| 売薬商 | 2 | 4 | 4 | 8 |
| 地方売薬行商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 写真原料販売商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 写真業 | 6 | 12 | 2 | 14 |
| 地方写真業 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 活動写真 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 農業 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 理髪業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 洗濯業 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 大工職 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 造花職 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 洋酒小売商 | 4 | 0 | 23 | 23 |
| 菓子商 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 印刷職 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 洋服裁縫職 | ① | ① | 0 | 1 |
| 外国人被雇人 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 雑業 | 1, ② | 3, ② | 1 | マツ 8 [6] |
| 帽子商 | ① | ① | 0 | 1 |
| 茶商 | ③ | ④ | 0 | 4 |
| 彫刻業 | 1 | ① | 0 | 1 |
| 小計 | 59 | 120 | 58 | 178 |

第18表 つづき

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計 (含台湾籍民) |
|--|----|------|------|-------------------|
| チェンマイ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| アイチャ | | | | |
| 雑貨商 | ① | ① | 0 | 1 |
| ウタラビット | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| ブーケット | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 3 | 2 | 5 |
| バンドン | | | | |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| ソクラー | | | | |
| 売薬商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| パタニー | | | | |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| ウボン | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| チェンマイ | | | | |
| 雑業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| ラブリー | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| シイラーチャー | | | | |
| 医師 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| バクナンボ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| タツコアン | | | | |
| 農業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| アンポーア | | | | |
| 写真業 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 14 | 26 | 2 | 28 |
| 合計 | 73 | 146 | 60 | 206 |
| (内地人 130, 台湾籍民 16) (内地人 60, 台湾籍民 0) (内地人 190, 台湾籍民 16) | | | | |

一、本邦人公設建設物なし

一、公共団体なし

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十六巻)

第19表（1916年）からは台湾籍民の職業別記載がなくなった。第20表備考より，台湾籍民は本邦人に含まれたのではなく，表から除外されたことが判る。

第19表 大正5年6月末現在本邦人職業別表 在盤谷領事館

| 職業別 | 戸数 | 人員 男 | 人員 女 | 人員 男女計 |
|--------------|----|------|------|--------|
| 盤谷 | | | | |
| 官吏 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 会社員 | 2 | 4 | 1 | 5 |
| 暹国政府傭聘人 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 貿易商 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 雑貨商 | 7 | 51 | 13 | 64 |
| 医師 | 3 | 9 | 3 | 12 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 写真原料販売商 | 1 | 4 | 0 | 4 |
| 写真業 | 4 | 17 | 3 | 20 |
| 鼈甲商 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 農業 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 理髪業 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 洗濯業 | 4 | 13 | 3 | 16 |
| 大工 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 造花職 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 洋酒小売商 | 4 | 2 | 28 | 30 |
| 印刷職 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 外国人被雇人 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| 彫刻業 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 雑業 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 外国人妾 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 小計 | 44 | 138 | 60 | 198 |
| チェンマイ | | | | |
| 雑貨商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ベトリエ | | | | |
| 写真業 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| ブーケット | | | | |
| 雑貨商 | 2 | 5 | 0 | 5 |
| 雑業 | 0 | 0 | 9 | 9 |
| バンドン | | | | |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| ソクラー | | | | |
| 売薬商 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| ウボン | | | | |
| 写真業 | 1 | 2 | 0 | 2 |
| シーラチャ | | | | |
| 医師 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 小計 | 9 | 17 | 9 | 26 |
| 合計 | 53 | 155 | 69 | 224 |

一、本邦人公設建築物 なし

一、公共団体 なし

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」 第十七卷)

第6表(1903年)から第20表(1917年)までは、バンコク以外の地方名もそれぞれ個々に明記して、そこに居住する日本人数を掲載している。明記された地方名は、バンコクに近い、シーラーチャー(シラーチャ)、アユタヤ(アイチャ)、チャチョンサオ(ペトリウ、ペトリエ、ペツリウ)、プラチンプリー(パチン、パチム)、チャンタブリー(チャンタブン)、ラートブリー(ラブリー)、ベツチャブリー、タツクワン(タツコアン)、北に向かってナコンサワン(パクナンポー)、ウットラディット(ウタラビット)、ラムパーン(ランパン)、チェンマイ、南タイのラノーン(ライオン、レーノン)、スラタニー(バンドン)、ナコンシータマラート(ラコン)、プーケット、ソクラー(シンゴラ)、パタニー、東北タイのコーラート(コーラット)、ブリラム(ブリーラム)、ウボン、ローイエット(ルイエット)など、タイ全土に及ぶ。

この時代は、日本は通商航海条約によりタイに対し治外法権を有する代わりに、日本人が居住出来る地域はバンコクとバンコク周辺(手漕ぎの小舟で、24時間以内に往復可能な範囲)に限られていた。しかし、実際はタイ全土に日本人の居住が可能であった。その理由は、タイ内務省が発行した内地旅行許可査証を、6ヶ月毎に更新する手続が認められていたからである。つまり、タイの地方に居住した日本人は、形式上旅行者の資格で永続的に滞在できたのである(村嶋英治編集・解説『天田六郎氏遺稿、「シャムの三十年」など』早稲田大学アジア太平洋研究センター研究資料シリーズ8号、2019年3月、38-39、200頁参照。本書は早稲田大学リポジトリよりダウンロードできる)。

第20表(1917年)には、台湾籍民、朝鮮人の項目が復活した。

第20表 大正6年6月末現在本邦人職業別表 在盤谷日本領事館

| 職業別 | 戸数 | 男 | 女 | 男女計 |
|------------|----|-----|----|-----|
| 官吏 | 3 | 4 | 2 | 6 |
| 外国傭聘 | 3 | 4 | 1 | 5 |
| 医師 | 5 | 9 | 2 | 11 |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 画工 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 工業(兼) | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 鉄工職(兼) | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 裁縫業(兼) | 1 | 4 | 0 | 4 |
| 洗濯業 | 4 | 10 | 3 | 13 |
| 大工 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 印刷彫刻業 | 3 | 4 | 0 | 4 |
| 諸職人 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 写真業 | 4 | 18 | 4 | 22 |
| 商業 | 3 | 7 | 1 | 8 |
| 薬種売薬商 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| 雑貨商 | 7 | 52 | 6 | 58 |
| 貿易商 | 1 | 4 | 0 | 4 |
| 仲買商 | 2 | 3 | 1 | 4 |
| 会社員店員其他事務員 | 2 | 6 | 2 | 8 |
| 車馬業(兼) | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 飲食店営業 | 4 | 1 | 4 | 5 |
| 理髪業 | 2 | 4 | 0 | 4 |
| 諸雇人 | 4 | 4 | 3 | 7 |
| 酌婦 | 0 | 0 | 25 | 25 |
| 雑業 | 4 | 4 | 1 | 5 |
| 学生及練習生 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 無職 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 遊歴視察者 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 台湾籍民 | 11 | 13 | 0 | 13 |
| 朝鮮人 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 小計 | 74 | 169 | 56 | 225 |

第 20 表 つづき

| 職業別 | 戸数 | 男 | 女 | 男女計 |
|------------------|------|------|------|------------------|
| 其他各地 (バンコク以外) | | | | |
| シンゴラ | | | | |
| 歯科医 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 売薬商 | 2 | 5 | 0 | 5 |
| レーノン | | | | |
| 売薬商 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| 諸雇人 | 7 | 0 | 7 | 7 |
| パタニー | | | | |
| 歯科医 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 売薬商 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| ブケット | | | | |
| 売薬商 | 3 | 5 | 1 | 6 |
| 諸雇人 | 2 | 0 | 2 | 2 |
| 雑業 | 3 | 0 | 6 | 6 |
| シーラチャ | | | | |
| 医師 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| バンドン | | | | |
| 売薬商 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 写真業 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| 無職 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ベツリウ | | | | |
| 雑貨商 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| ルイット | | | | |
| 売薬商 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| バクナンポー | | | | |
| 売薬商 | 1 | 3 | 0 | 3 |
| 台湾籍民 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 朝鮮人 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 小計 | 33 | 32 | 23 | 55 |
| 合計 | 107 | 201 | 79 | 280 (内地人 257) |
| 前年比較 | 増 54 | 増 46 | 増 10 | 増 56 |

備考一、戸数並人口の前年に比し増加せるは台湾籍民及朝鮮人を加入せしに因る

一、家族又は使用人にして同一戸内に居住する者は総て本業者の人口数に加算す

一、本邦人公設建築物 なし

一、公共団体 なし

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第十七巻)

第 21 表 (1918 年) から報告者は、職業別の欄には戸数を記載せず、男女人数とその合計のみを記し、且つバンコク以外の他の各地は、地名別に分けずに、其他各地として一括して記載している。

第 21 表 在盤谷領事館管内各地在留本邦人職業別表大正 7 年 6 月末現在，在盤谷領事館

| 職業別 | 男 | 女 | 男女計 |
|--------------------|-----|-----|------|
| 盤谷 | | | |
| 官公吏 | 4 | 2 | 6 |
| 外国傭聘 | 5 | 3 | 8 |
| 医師 | 7 | 2 | 9 |
| 歯科医 | 2 | 0 | 2 |
| 画工 | 1 | 0 | 1 |
| 工業 | 2 | 0 | 2 |
| 鉄工 | 1 | 0 | 1 |
| 大工職 | 1 | 0 | 1 |
| 印刷業並彫刻業 | 4 | 0 | 4 |
| 写真業 | 16 | 4 | 20 |
| 洗濯業 | 5 | 3 | 8 |
| 諸職人 | 5 | 0 | 5 |
| 商業 | 6 | 0 | 6 |
| 業種売業商 | 6 | 1 | 7 |
| 雑貨商 | 43 | 3 | 46 |
| 貿易商 | 4 | 0 | 4 |
| 仲買商 | 9 | 3 | 12 |
| 会社員 | 15 | 4 | 19 |
| 事務員 | 1 | 1 | 2 |
| 飲食店 | 2 | 10 | 12 |
| 理髪業 | 4 | 1 | 5 |
| 家事被傭人 | 0 | 3 | 3 |
| 酌婦 | 0 | 20 | 20 |
| 雑業 | 3 | 0 | 3 |
| 学生及練習生 | 1 | 0 | 1 |
| 無職 | 0 | 0 | 0 |
| 視察遊歴者 | 13 | 0 | 13 |
| 朝鮮人 | 3 | 0 | 3 |
| 台湾籍民 | 11 | 1 | 12 |
| 合計 | 177 | 58 | 235 |
| 前年同期との比較 | 増 8 | 増 2 | 増 10 |
| 盤谷戸数計 | | | 72 戸 |
| 其他各地 | | | |
| 医師 | 1 | 1 | 2 |
| 歯科医 | 2 | 0 | 2 |
| 写真業 | 6 | 1 | 7 |
| 諸職人 | 1 | 0 | 1 |
| 商業 | 3 | 1 | 4 |
| 業種売業商 | 7 | 3 | 10 |
| 雑貨商 | 12 | 1 | 13 |
| 家事被傭人 | 0 | 11 | 11 |
| 雑業 | 2 | 4 | 6 |
| 無職業 | 0 | 3 | 3 |
| 視察遊歴者 | 1 | 0 | 1 |
| 朝鮮人 | 1 | 0 | 1 |
| 台湾籍民 | 2 | 0 | 2 |
| 計 | 38 | 25 | 63 |
| 前年同期との比較 | 増 6 | 増 2 | 増 8 |
| 其他各地戸数計 | | | 30 戸 |
| 総計 298 人 (内地人 280) | | | |

本表の職業人名中には其家族をも包含計上す。

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」 第十九卷)

第 22 表 在盤谷帝国領事館管内各地在留本邦人職業別表 大正 8 年 6 月末現在

| 職業別 | 盤谷 男 | 盤谷 女 | 地方 男 | 地方 女 | 計 |
|-----------|-----------|------|----------|------|-------|
| 官公吏 | 5 | | | | 5 |
| 外国傭聘 | 4 | | | | 4 |
| 医師 | 5 | | | | 5 |
| 歯科医 | 2 | | 2 | | 4 |
| 画工 | 1 | | | | 1 |
| 印刷業彫刻業 | 2 | | | | 2 |
| 大工職 | 2 | | | | 2 |
| 和洋服裁縫業 | 1 | | | | 1 |
| 洗濯業 | 4 | | | | 4 |
| 写真業 | 5 | | 10 | | 15 |
| 売薬商 | 4 | | 7 | | 11 |
| 雑貨商 | 8 | 1 | 12 | | 21 |
| 仲買業 | 2 | | | | 2 |
| 行商 | 2 | | | | 2 |
| 会社員 | 15 | | | | 15 |
| 銀行員 | 6 | | | | 6 |
| 商店店員其他事務員 | 70 | | 8 | | 78 |
| 用達商 | 1 | | | | 1 |
| 旅宿業 | 1 | | | | 1 |
| 料理店飲食店 | 1 | 4 | | | 5 |
| 理髪業 | 3 | | | | 3 |
| 料理人 | 4 | | | | 4 |
| 家事被傭人 | | 7 | | 8 | 15 |
| 酌婦 | | 17 | | | 17 |
| 雑業 | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 |
| 本業者の家族 | 10 | 30 | | 13 | 53 |
| 内地人合計 | 159 | 60 | 41 | 22 | 282 |
| 朝鮮人 | 5 | | | | |
| 台湾籍民 | 19 | 1 | | | |
| 総計 | 244 (男女計) | | 63 (男女計) | | 307 |
| 前年同期比較 | 増 9 | | 増減無し | | |
| 戸数 | 77 戸 | | 34 戸 | | 111 戸 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十巻)

外務大臣は、1920 年 5 月 19 日に在外各公館長に「例年 6 月末現在調を以て御提出相成居候在留本邦人職業別人員表は来年以降別紙様式に拠り作成報告相成」ように命じ「表の形式」及び「職業分類」を添付した。

「表の形式」は、127 に分類した職業について、地名別に本業者（男，女），家族（男，女）に分けて記入し、本邦内地人合計を出す。それに続けて朝鮮人，台湾籍民を地名別に、本業者（男，女），家族（男，女）に分けて記入し、朝鮮人，台湾籍民の合計を出す。更に、本邦内地人合計と朝鮮人，台湾籍民合計の両者を合わせた総計を記し、前年同期との増減，戸数を記す，というものであった（外務省記録 7.1.5.4 『海外在留本邦人職業別人口調査一件 第二十巻』）。

127 の職業分類は、大正 9 年 10 月 1 日実施の国勢調査に用いた標準職業分類の小分類（252 項目）を 127 項目に整理したものであった。

ところが、当初外務省は、127 の職業名毎に該当人数を書き込む空欄を設けた一覧表を送付しなかったため、127 分類に拠らずに報告してきた公館長もあった（外務省記録 7.1.5.4 『海外在留本邦人職業別人口調査一件 第二十二巻』（訓令））。そこで、大正 11 年 6 月末現在の報告からは、外務省通商局が送付した記入用の一覧表に、ただ数字を書き込ませて送り返させる方法を採用し、統一を図った（外務省記録 7.1.5.4 『海外在留本邦人職業別人口調査一件 第二十三巻』（訓令））。

しかし、サンフランシスコ総領事、ロスアンゼルス領事は、1926（大正15）年5-6月に、在留邦人の数が多いので正確な調査をするには多大の費用と労力を要し、割に合わないという意見具申を行った。これを受け、外務省は、両地については在留邦人職業別調査を廃止することを決定した。両地以外については、職業分類を大正9年国勢調査の標準職業分類の中分類（41項目）を参考に60項目に簡略化した。結局、127項目の職業分類を用いた調査は、大正9年から14年までの6年間のみので終わった（外務省記録7.1.5/4『海外在留本邦人職業別人口調査一件 第三十一巻』）。

さて、タイでは第23表（1920）の調査から、127の職業分類を使用し、第28表（1925年）まで続いた。127の職業中にはタイの日本人が従事していない業種も当然存在した。第23表左端の順番とは、127の職業分類に付された番号であり、順番を欠く職業には在タイ日本人は就業していないことを意味する。なお、同一番号でも各表間に職業名の異同があるが、これは原本通りに記載したものである。

第23表 在盤谷帝国領事館管内各地在留本邦人職業別表 大正9年6月末現在 在盤谷帝国領事館（各職業とも男：女の順）

| 順番 | 職業名 | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|----------|-----------------|------------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 1 | 農作 | | | 2:0 | 0:1 | 2:0 | 0:1 |
| 15 | 鉱業労働者 | | | 2:0 | | 2:0 | |
| 38 | 洗濯業 | 5:0 | 0:2 | | | 5:0 | 0:2 |
| 39 | 理髪 | 5:0 | 0:2 | 1:0 | 0:1 | 6:0 | 0:3 |
| 43 | 大工 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 44 | 印刷 | 5:0 | 2:2 | | | 5:0 | 2:2 |
| 46 | 其他の工業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 52 | 酒類販売 | 1:0 | 0:1 | | | 1:0 | 0:1 |
| 68 | 化粧品販売 | 6:0 | 0:5 | 3:0 | 1:1 | 9:0 | 1:6 |
| 70 | 薬品販売 | 2:0 | | 7:0 | 0:1 | 9:0 | 0:1 |
| 79 | 会社員、銀行員、商店員、事務員 | 80:0 | 0:7 | 4:0 | | 84:0 | 0:7 |
| 85 | 旅人宿 | 1:0 | 0:1 | | | 1:0 | 0:1 |
| 86 | 飲食店 | 0:3 | 2:0 | | | 0:3 | 2:0 |
| 88 | 貿易商 | 2:0 | 0:1 | | | 2:0 | 0:1 |
| 89 | 行商 | | | 2:0 | | 2:0 | |
| 90 | 仲買商用達商 | 5:0 | 1:2 | | | 5:0 | 1:2 |
| 101 | 官公吏 | 5:0 | | | | 5:0 | |
| 102 | 外国傭聘 | 3:0 | 1:4 | | | 3:0 | 1:4 |
| 105 | 医師 | 5:0 | 0:3 | | | 5:0 | 0:3 |
| 106 | 歯科医入歯師 | 1:0 | | 3:0 | | 4:0 | |
| 108 | 薬剤師 | 1:0 | 1:1 | | | 1:0 | 1:1 |
| 114 | 写真師画家 | 4:0 | 3:4 | 6:0 | | 10:0 | 3:4 |
| 118 | 家事被傭人料理人 | 5:3 | 0:1 | | | 5:3 | 0:1 |
| 119 | 酌婦 | 0:11 | | | | 0:11 | |
| 120 | 其他の自由業 | 1:2 | | 0:9 | | 1:11 | |
| 121 | 其他の労働者 | | | 1:0 | | 1:0 | |
| 124 | 学生 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 127 | 職業を申告せざる者 | 1:0 | | 4:6 | | 5:6 | |
| 内地人計 | | 141:19 | 10:36 | 35:15 | 1:4 | 176:34 | 11:40 |
| 内地人男女合計 | | 160 | 46 | 50 | 5 | 210 | 51 |
| 朝鮮人 | | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 台湾籍民 | | 23:0 | 0:2 | 2:0 | | 25:0 | 0:2 |
| 男女合計 | | 186 | 48 | 52 | 5 | 238 | 53 |
| 総計 | | 186+48=234 | | 52+5=57 | | 238+53=291 | |
| 前年同期との比較 | | 減10 | | 減6 | | 減16 | |
| 戸数 | | 87戸 | | 38戸 | | 125戸 | |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十一巻）

第24表（1921年）は在盤谷領事三隅棄蔵の報告書に，本省で次のような修正を付している。
 順番89の上に本省員のコメント「調査当日，本業者旅行中なりしならん」
 順番119の上に本省員の訂正の言「酌婦の本業者を家族と見しものと認めむ 訂正せり」
 順番127の上に本省員の訂正の言「家族の無業者は受取難し，本業者に入るべきものと認め訂正す」。
 ここに掲げる第24表の順番119，127は本省員が訂正した後のものである。

第24表 在盤谷領事館管内本邦人職業別表 大正10年6月末現在（各職業とも男：女の順）

| 順番 | 職業別 | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|---------|-----------------|------------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 1 | 農作 | | | 1:0 | | 1:0 | |
| 15 | 鉱業労働者 | | | 1:0 | | 1:0 | |
| 38 | 洗濯業 | 3:0 | 0:2 | 1:0 | 0:2 | 4:0 | 0:4 |
| 39 | 理髪 | 4:0 | 0:3 | | | 4:0 | 0:3 |
| 43 | 大工 | 2:0 | | | | 2:0 | |
| 44 | 印刷業 | 3:0 | 1:2 | | | 3:0 | 1:2 |
| 46 | 其他の工業 | | | 2:0 | | 2:0 | |
| 47 | 工場労働者 | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 52 | 酒類販売 | 0:2 | 1:0 | | | 0:2 | 1:0 |
| 53 | 菓子販売 | | | 1:0 | | 1:0 | |
| 69 | 雑貨販売 | 0:1 | | 3:0 | 3:2 | 3:1 | 3:2 |
| 70 | 薬品販売 | 3:0 | 1:1 | 8:0 | 0:5 | 11:0 | 1:6 |
| 79 | 会社員，銀行員，商店員，事務員 | 81:0 | 3:9 | | | 81:0 | 3:9 |
| 85 | 旅人宿 | 0:1 | | 0:1 | 0:4 | 0:2 | 0:4 |
| 86 | 飲食店 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 88 | 貿易商 | 5:0 | 3:7 | | | 5:0 | 3:7 |
| 89 | 行商 | | 1:0 | | | | 1:0 |
| 90 | 仲買商 | 3:0 | 0:1 | | | 3:0 | 0:1 |
| 92 | 其他の商業 | 2:0 | | | | 2:0 | |
| 101 | 官公吏 | 5:0 | 0:1 | | | 5:0 | 0:1 |
| 102 | 外国傭聘 | 5:0 | 1:4 | | | 5:0 | 1:4 |
| 105 | 医師 | 4:0 | 0:2 | | | 4:0 | 0:2 |
| 106 | 歯科医入歯師 | 1:0 | 0:1 | 1:0 | | 2:0 | 0:1 |
| 114 | 写真師画家 | 5:0 | 2:4 | 8:0 | 0:1 | 13:0 | 2:5 |
| 118 | 家事被傭料理人 | 5:1 | 1:4 | 2:3 | | 7:4 | 1:4 |
| 119 | 酌婦 | 0:7 | | | | 0:7 | |
| 121 | 其他の労働者 | 5:0 | | | | 5:0 | |
| 122 | 其他の有業者 | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 124 | 学生 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 127 | 其他の無職者 | 0:3 | | 1:0 | 0:3 | 1:3 | 0:3 |
| 内地人計 | | 144:15 | 14:41 | 29:4 | 3:17 | 173:19 | 17:58 |
| 内地人男女合計 | | 214 | | 53 | | 267 | |
| 朝鮮人 | | 5:0 | | | | 5:0 | |
| 台湾籍民 | | 32:6 | | | 3:0 | 35:6 | |
| 朝鮮台湾合計 | | 37:6 | | | 3:0 | 40:6 | |
| 総計 | | 214+43=257 | | 53+3=56 | | 267+46=313 | |
| 前年同期と比較 | | 増23 | | 減1 | | 増22 | |
| 戸数 | | 83戸 | | 27戸 | | 110戸 | |

（出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十二巻）

第 25 表 在盤谷領事館管内本邦人職業別表 大正 11 年 6 月末現在 (各職業とも男：女の順)

| 順番 | 職業別 | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|---------|-------------------|------------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 15 | 鉱業労働者 | | | 2:0 | | 2:0 | |
| 18 | 鍛冶業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 36 | 洋服裁縫 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 38 | 洗濯業 | 3:0 | 0:1 | 1:0 | 0:2 | 4:0 | 0:3 |
| 39 | 理髪業 | 3:0 | 2:1 | | | 3:0 | 2:1 |
| 43 | 大工職 | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 44 | 印刷業 | 2:0 | 1:3 | | | 2:0 | 1:3 |
| 47 | 工場労働者 | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 52 | 酒類販売業 | 0:2 | | | | 0:2 | |
| 69 | 雑貨販売 | 1:0 | 1:2 | 5:0 | 3:3 | 6:0 | 4:5 |
| 70 | 薬品販売 | 2:0 | 3:3 | 3:0 | 2:2 | 5:0 | 5:5 |
| 79 | 会社員, 銀行員, 店員 | 79:0 | 2:6 | 7:0 | 1:3 | 86:0 | 3:9 |
| 85 | 旅人宿 | 1:0 | 0:1 | | | 1:0 | 0:1 |
| 88 | 貿易商 | 6:0 | 3:4 | | | 6:0 | 3:4 |
| 92 | 他の商業 | 2:0 | 0:1 | 2:0 | | 4:0 | 0:1 |
| 101 | 官公吏 | 4:0 | 0:4 | | | 4:0 | 0:4 |
| 102 | 外国傭聘 | 5:0 | 0:2 | | | 5:0 | 0:2 |
| 105 | 医師 | 3:0 | 1:2 | | | 3:0 | 1:2 |
| 106 | 歯科医入歯師 | 1:0 | 0:1 | 2:0 | | 3:0 | 0:1 |
| 114 | 写真師 | 7:0 | 5:5 | | | 7:0 | 5:5 |
| 118 | 家事被傭人 | 5:2 | | 2:3 | | 7:5 | |
| 119 | 酌婦其他 | 0:10 | | | | 0:10 | |
| 122 | 他の有業者 | 3:0 | 0:3 | 4:0 | 0:1 | 7:0 | 0:4 |
| 123 | 視察遊覧者 | 1:0 | 0:1 | | | 1:0 | 0:1 |
| 124 | 学生 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 127 | 他の無職者 又は申告せざる者 | 3:1 | | 7:4 | | 10:5 | |
| 内地人計 | | 140:15 | 18:40 | 35:7 | 6:11 | 175:22 | 24:51 |
| 内地人男女合計 | | 213 | | 59 | | 272 | |
| 朝鮮人 | | 10:0 | | | | 10:0 | |
| 台湾籍民 | | 47:9 | | 2:0 | | 49:9 | |
| 朝鮮台湾合計 | | 57:9 | | 2:0 | | 59:9 | |
| 総計 | | 213+66=279 | | 59+2=61 | | 279+61=340 | |
| 前年同期と比較 | | 増 22 | | 増 5 | | 増 27 | |
| 戸数 | | 98 戸 | | 34 戸 | | 132 戸 | |

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十三巻)

なお、上記第 25 表 (1922 年) は、外務省通商局印刷『海外各地在留本邦人職業別人口表』(大正 11 年 6 月末現在調) 掲載の第 18 表と同一である。

第 26 表 在盤谷領事館管内本邦人職業別表 大正 12 年 6 月末現在（各職業とも男：女の順）

| 職業別 | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|-------------------|------------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 内地人計 | 131:13 | 10:38 | 29:10 | 1:4 | 160:23 | 11:42 |
| 内地人男女合計 | 盤谷 192 | | 地方 44 | | 192+44=236 | |
| 朝鮮人 | 7:0 | | | | 7:0 | |
| 台湾籍民 | 44:3 | | 2:0 | | 46:3 | |
| 総計 | 192+54=246 | | 44+2=46 | | 246+46=292 | |
| 前年同期との比較 | 減 33 | | 減 15 | | 減 48 | |
| 戸数 | 96 戸 | | 30 戸 | | 126 戸 | |
| 14 鉱業労働者 | | | 3:0 | | 3:0 | |
| 18 鍛冶業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 26 石鹼製造 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 36 洋服裁縫 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 38 洗濯業 | 4:0 | 0:2 | | | 4:0 | 0:2 |
| 39 理髪業 | 2:0 | 2:0 | | | 2:0 | 2:0 |
| 43 大工職 | 2:0 | | | | 2:0 | |
| 44 印刷職 | 2:0 | 0:2 | | | 2:0 | 0:2 |
| 47 工場労働者 | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 52 酒類販売 | 0:2 | | | | 0:2 | |
| 53 菓子販売 | 1:0 | | 1:0 | | 2:0 | |
| 69 雑貨販売 | 2:0 | 1:2 | 2:0 | 0:1 | 4:0 | 1:3 |
| 70 薬品販売 | 1:0 | 1:1 | 1:0 | 0:1 | 2:0 | 1:2 |
| 77 周旋業 | 8:0 | | | | 8:0 | |
| 79 銀行員店員 | 56:0 | 0:7 | 4:0 | | 60:0 | 0:7 |
| 85 旅人宿 | 0:1 | | | | 0:1 | |
| 88 貿易商 | 6:0 | 2:2 | | | 6:0 | 2:2 |
| 92 その他の商業 | 1:0 | | 1:0 | | 2:0 | |
| 101 官公吏 | 5:0 | 0:8 | | | 5:0 | 0:8 |
| 102 外国傭聘 | 5:0 | 0:4 | | | 5:0 | 0:4 |
| 105 医師 | 3:1 | 1:2 | 1:0 | 1:0 | 4:1 | 2:2 |
| 106 歯科医入歯師 | 1:0 | 0:1 | 5:0 | 0:2 | 6:0 | 0:3 |
| 108 薬剤師 | 1:0 | 1:1 | | | 1:0 | 1:1 |
| 109 産婆 | 0:1 | | 0:1 | | 0:2 | |
| 114 写真師 | 6:0 | 2:3 | 8:0 | | 14:0 | 2:3 |
| 118 家事被傭人 | 1:3 | | 0:5 | | 1:8 | |
| 119 酌婦 | 0:5 | | | | 0:5 | |
| 122 其他の有業者 | 15:0 | 0:2 | 3:0 | | 18:0 | 0:2 |
| 127 無職業職業を申告せざるもの | 3:0 | 0:1 | 0:4 | | 3:4 | 0:1 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十五巻)

松宮順領事が報告した上記第 26 表（1923 年）の原本は、順番 92 までで途切れており、その後の部分を欠いているが、この欠如部分には外務省通商局印刷『海外各地在留本邦人職業別人口表』（大正 12 年 6 月末現在調）掲載の第 17 表（職業別欄内には台・鮮人を含まず）が、付されている。上記第 26 表の順番 92 より後ろの部分は、印刷版の上記第 17 表に拠っている。

第 27 表 在盤谷領事館管内本邦人職業別表 大正 13 年 6 月末現在 (各職業とも男：女の順)

| | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|----------------------|------------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 内地人計 | 128:12 | 12:36 | 34:10 | 4:4 | 162:22 | 16:40 |
| 内地人男女合計 | 盤谷 188 | | 地方 52 | | 188+52=240 | |
| 朝鮮人 | 6:0 | | | | 6:0 | |
| 台湾籍民 | 55:6 | | 7:0 | | 62:6 | |
| 総計 | 188+67=255 | | 52+7=59 | | 255+59=314 | |
| 前年同期との比較 | 増 12 [9] | | 増 13 | | 増 25 [22] | |
| 戸数 | 101 戸 | | 35 戸 | | 136 戸 | |
| 15 鉱業労働者 | | | 3:0 | | 3:0 | |
| 18 鍛冶業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 38 洗濯業 | 4:0 | 0:2 | | | 4:0 | 0:2 |
| 39 理髪 | 3:0 | 0:1 | | | 3:0 | 0:1 |
| 43 大工 | 1:0 | | 1:0 | | 2:0 | |
| 44 印刷 | 1:0 | 0:1 | | | 1:0 | 0:1 |
| 47 工場労働者 | 3:0 | | 1:0 | | 4:0 | |
| 52 酒類販売 | 0:2 | | | | 0:2 | |
| 53 菓子販売 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 69 雑貨販売 | 2:0 | 1:2 | 4:0 | 2:2 | 6:0 | 3:4 |
| 70 薬品販売 | 1:0 | | 2:0 | | 3:0 | |
| 77 周旋業 | 8:0 | | | | 8:0 | |
| 79 会社員, 銀行員, 店員, 事務員 | 57:0 | 0:6 | 5:0 | | 62:0 | 0:6 |
| 85 旅人宿 | 0:1 | | | | 0:1 | |
| 88 貿易商 | 6:0 | 2:3 | | | 6:0 | 2:3 |
| 92 その他の商業 | 2:0 | | 2:0 | | 4:0 | |
| 101 官公吏雇員 | 5:0 | 2:6 | | | 5:0 | 2:6 |
| 102 外国傭聘 | 4:0 | 2:5 | | | 4:0 | 2:5 |
| 105 医師 | 3:1 | 1:3 | | | 3:1 | 1:3 |
| 106 歯科医人歯師 | 1:0 | 0:1 | 6:0 | 0:1 | 7:0 | 0:2 |
| 108 薬剤師 | 1:0 | 2:0 | | | 1:0 | 2:0 |
| 109 産婆 | 0:1 | | | | 0:1 | |
| 114 写真師 | 6:0 | 2:3 | 7:0 | 0:1 | 13:0 | 2:4 |
| 118 家事被傭人 | 1:2 | | 0:6 | | 1:8 | |
| 119 酌婦 | 0:5 | | | | 0:5 | |
| 122 其他の有業者 | 15:0 | 0:2 | 3:0 | 1:0 | 18:0 | 1:2 |
| 124 学生 | 2:0 | | | | 2:0 | |
| 127 其他無職業者 | | 0:1 | 0:4 | 1:0 | 0:4 | 1:1 |

(出所：外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十八巻)

上記第 27 表 (1924 年) は、外務省通商局『海外各地在留本邦人職業別人口表 (大正 13 年 6 月末現在調)』の第 17 表として印刷されている。

第 28 表 (1925 年) では、10 月 1 日現在の調査に変更された。第 28 表原本は、88 貿易商の数字記入を忘れたものと考えられる。

第28表 在盤谷領事館管内本邦人職業別表 大正14年10月1日現在（各職業とも男：女の順）

| | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|--------------------|------------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 内地人計 | 108:6 | 24:38 | 34:13 | 1:15 | 142:19 | 25:53 |
| 内地人男女合計 | 盤谷 176 | | 地方 63 | | 176+63=239 | |
| 朝鮮人 | 7:0 | | 1:0 | | 8:0 | |
| 台湾籍民 | 56:15 | | 3:0 | | 59:15 | |
| 総計 | 176+78=254 | | 63+4=67 | | 254+67=321 | |
| 前年6月末との比較 戸数 | 減1 59戸 | | 増8 18戸 | | 増7 77戸 | |
| 13 漁業労働者 | | | 1:0 | | 1:0 | |
| 15 鉱業労働者 | | | 2:0 | | 2:0 | |
| 18 鍛冶業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 38 洗濯業 | 2:0 | | | | 2:0 | |
| 39 理髪 | 3:0 | 2:2 | | | 3:0 | 2:1 |
| 43 大工 | 1:0 | | 1:0 | | 2:0 | |
| 44 印刷 | 2:0 | 0:1 | | | 2:0 | 0:2 |
| 53 菓子販売 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 58 木材販売 | 1:0 | 0:2 | | | 2:0 | 0:2 |
| 63 油類販売 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 69 雑貨販売 | 2:0 | 4:4 | 2:1 | | 4:1 | 4:4 |
| 70 薬品販売 | 2:0 | 1:0 | 6:3 | | 8:3 | 1:0 |
| 77 周旋 | 3:0 | 1:0 | | | 3:0 | 1:0 |
| 79 会社員，銀行員，商店員，事務員 | 53:0 | 3:7 | 6:0 | | 59:0 | 3:7 |
| 85 旅人宿 | 0:1 | 1:0 | | | 0:1 | 1:0 |
| 86 料理店 | 0:1 | | | | 0:1 | |
| 88 貿易商 | [4:0] | [4:4] | | | [4:0] | [4:4] |
| 92 その他の商業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 101 官公吏 | 3:0 | 2:4 | | | 3:0 | 2:4 |
| 102 外国傭聘 | 4:0 | 1:3 | | | 4:0 | 1:3 |
| 105 医師 | 2:2 | 2:2 | | | 2:2 | 2:2 |
| 106 歯科医入歯師 | 1:0 | 0:1 | 3:0 | | 4:0 | 0:1 |
| 108 薬剤師 | 1:0 | 1:2 | | | 1:0 | 1:2 |
| 109 産婆 | | | 0:1 | | 0:1 | |
| 110 按摩針灸看護婦 | 1:0 | | 1:1 | | 2:1 | |
| 114 写真師 | 4:0 | 2:2 | 5:0 | 0:2 | 9:0 | 2:4 |
| 118 家事被傭人 | 2:0 | | 1:0 | | 3:0 | |
| 122 その他の有業者 | 7:0 | 0:4 | 5:0 | 1:13 | 12:0 | 1:17 |
| 124 学生 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 127 其他無業者等 | 5:2 | | 1:7 | | 6:9 | |

備考①職業別欄内には台・鮮人を含まず②台湾籍民中，男三の在監受刑者あり③台湾籍民は雑貨及薬品の行商，朝鮮人は人參行商を主なる営業とす

(出所：外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」第二十九卷)

第 29 表 在盤谷領事館管内本邦人職業別表 大正 15 年 6 月末現在 (各職業とも男：女の順)

| | 盤谷 本業者 | 盤谷 家族 | 地方 本業者 | 地方 家族 | 本業者計 | 家族計 |
|-----------------------|-----------|----------|-----------|----------|------------|-------|
| 内地人計 | 101:17 | 29:40 | 32:10 | 1:15 | 133:27 | 30:55 |
| 内地人男女合計 | 盤谷 187 | | 地方 58 | | 187+58=245 | |
| 朝鮮人 | 3:0 | | 1:0 | | 4:0 | |
| 台湾籍民 | 65:15 | | 5:0 | | 70:15 | |
| 総計 | 270 | | 64 | | 270+64=334 | |
| 前年同期との比較 | 増 11 | | 減 5 | | 増 6 | |
| 戸数 | 62 戸 | | 18 戸 | | 80 戸 | |
| 13 漁業労働者 | | | 1:0 | | 1:0 | |
| 15 鉱業労働者 | | | 2:0 | | 2:0 | |
| 18 鍛冶業 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 38 洗濯業 | 2:0 | 0:1 | | | 2:0 | 0:1 |
| 39 理髪 | 4:0 | 2:2 | | | 4:0 | 2:2 |
| 43 大工 | 1:0 | | 1:0 | | 2:0 | |
| 44 印刷 | 5:0 | 0:1 | | | 5:0 | 0:1 |
| 53 菓子販売 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 58 木材販売 | 1:0 | 0:2 | | | 1:0 | 0:2 |
| 69 雑貨販売 | 2:0 | 5:4 | 3:0 | 0:3 | 5:0 | 5:7 |
| 70 薬品販売 | 2:0 | | 6:0 | 1:4 | 8:0 | 1:4 |
| 77 周旋業 | 3:0 | 1:0 | | | 3:0 | 1:0 |
| 79 会社員, 銀行員, 商店員, 事務員 | 39:0 | 4:7 | 4:0 | | 43:0 | 4:7 |
| 85 旅人宿 | 0:1 | 1:0 | | | 0:1 | 1:0 |
| 86 料理屋 | 0:3 | 1:0 | | | 0:3 | 1:0 |
| 88 貿易商 | 5:0 | 2:5 | | | 5:0 | 2:5 |
| 90 仲買商 | 2:0 | | 1:0 | 0:1 | 3:0 | 0:1 |
| 101 官公吏 | 4:0 | 2:4 | | | 4:0 | 2:4 |
| 102 外国備聘 | 4:0 | 4:6 | | | 4:0 | 4:6 |
| 104 教育関係者 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 105 医師 | 6:2 | 1:2 | 1:0 | 0:1 | 7:2 | 1:3 |
| 106 歯科医入歯師 | 2:0 | 0:1 | 4:0 | 0:2 | 6:0 | 0:3 |
| 108 薬剤師 | 1:0 | 2:2 | | | 1:0 | 2:2 |
| 109 産婆 | 0:1 | | 0:1 | | 0:2 | |
| 110 按摩針灸師 | 1:0 | 0:1 | | | 1:0 | 0:1 |
| 114 写真師 | 4:0 | 4:2 | 5:0 | 0:2 | 9:0 | 4:4 |
| 116 其他技芸 | | | 1:0 | 0:1 | 1:0 | 0:1 |
| 118 家事被傭人 | 3:2 | | 1:6 | | 4:8 | |
| 119 酌婦 | 0:8 | | 0:1 | | 0:9 | |
| 122 其他有業者 | 2:0 | | 2:2 | 0:1 | 4:2 | 0:1 |
| 123 視察遊歴者 | 3:0 | | | | 3:0 | |
| 124 学生 | 1:0 | | | | 1:0 | |
| 126 在監受刑者 | 1:0 | | | | 1:0 | |

備考①職業別欄内には台・鮮人を含まず②台湾籍民の男の中, 在監者三あり③台湾籍民の内, 数名は根性ある商売を営み有望なり其他は薬品雑貨の行商。

(出所: 外務省記録 7.1.5/4 「海外在留本邦人職業別人口調査一件」 第三十二卷)

大正 15 年 (1926 年) 9 月 20 日付けで幣原外務大臣から, 各在外公館館長 (除く米国) に宛て, 次の訓令が発せられた。

海外各地在留本邦人職業別人口表に関する件

従来毎年6月末日現在を以て調査報告相成りたる在留本邦人職業別人口表は本年度より大正9年12月24日附内閣訓令第1号国勢調査の表章に用ふる職業に関する標準分類表の中分類に拠る別紙様式〔60分類のこと〕採用のことに改めたるに付来年分以後は左記要領及別冊職業分類表御参照の上右に依り調査御報告相成度

記

戸数は本邦内地人のみに就き調査のこと

各職業欄内には朝鮮人及台湾籍民を算入せざること

二種以上の職業を有する者は其主たる職業に依り又合して一業態と認めらるるものは其職業に依り調査し之を区分せざること

職業上の地位即業主竝に職員と労働者の別は大体識別し得る程度に止められ差支なきこと

視察旅行者の如き一時的滞在者は調査より除外せられ度きこと

大、公使、領事等在外公館員及其家族の数を調査せられざりし向従来往々ありたるに付今後右等の者の数も漏なく職業欄60「官公吏雇傭」中に含ましむること

(外務省記録7.1.5/4『海外在留本邦人職業別人口調査一件 第三十一巻』1，訓令)。

前述のように毎年の職業別人員調査に多大な労力がかかることを是正するために、大正15年から職業分類を60項目に簡素化した。しかし、バンコク領事は大正15年分に関しては、6月末日現在で127職業分類による調査を実施済みであった(第29表)。外務省通商局が刊行した『海外各地在留本邦人職業別人口表(大正15年10月1日現在調)』は、大正15年6月末現在の報告である上記第29表を、新方式の60項目に再分類して、しかも「大正15年10月1日現在調」という事実とは異なる調査日を付して、掲載している。

本稿が掲載した第1表から第29表は、外務省記録7.1.5/4「海外在留本邦人職業別人口調査一件」ファイル中に保存されている、在バンコク領事の報告書原本に拠っている。このファイルは、第三十二巻(1926年分)で終わっている。それに続いて、バンコク領事が提出した報告書原本は、外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件(19冊)」中に保存されている。また、各領事の報告書を編集して外務省通商局が印刷した冊子調書も存在する。これらは、前述のように、2002年に不二出版が、『海外各地在留本邦人職業別人口表』(全5巻)として復刻している。

外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件(19冊)」中の、在バンコク領事報告書原本は、上記1926年9月20日付幣原外相訓令に従い60の職業分類に依っている。

以下、60職業分類により調査が実施された1927年から1941年までの期間について、在盤谷領事の報告原本に従って、第30表(1927年)から第42表(1941年)まで掲載する。

なお領事の報告原本では、盤谷以外の地方は大雑把ながら5地域に区分けて記載されているが、外務省通商局が各地領事の報告を編集して印刷した印刷版、『海外各地在留本邦人職業別人口表』では、1927年、28年については盤谷以外は其他として一つに纏められており、1929年以降は盤谷・其他を区別することなく全国の合計数のみになっている。

第30表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和2年10月1日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | プケット | シンゴラ・ パタニ | ウボン | コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|-----------------|--------|-------|--------------|-----|------|-------------|--------|
| 内地人 本業者(男:女) | 101:14 | 15:14 | 3:0 | 1:0 | 2:0 | 7:0 | 129:28 |
| 家族(男:女) | 25:52 | 1:6 | 0:2 | 0:0 | 0:0 | 2:3 | 28:63 |
| 内地人合計 | 192 | 36 | 5 | 1 | 2 | 12 | 248 |
| 朝鮮人 男:女 | 13:1 | | | | | | 13:1 |
| 台湾籍民 男:女 | 26:15 | | | | | 5:1 | 31:16 |
| 総計 | 247 | 36 | 5 | 1 | 2 | 18 | 309 |
| 昨年同期との比較 | -23 | | -1 | | -1 | | -25 |
| 戸数 | 76 | 10 | 2 | 1 | 2 | 6 | 97 |

(出所：外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第一巻)

本邦人は、内地人、朝鮮人、台湾籍民の三者から成っている。内地人の欄は、上に、本業者数を男：女に分けて記し、下に本業者の家族を男：女で記している。本統計には、一時的旅行者は含まれていない。戸数の欄には内地人のみが記され、朝鮮人、台湾籍民は含まれていない。これらは、以下の表でも同様である。

なお、戸数は、本業者数である世帯主数と見てよい。男女とも家族がいない一人世帯が相当数存在していることが判る。

以下の「内地人職業別本業者」リストで職業の前の番号は、60種類の職種に付された分類番号であり、60分類が継続した1941年まで、番号と職種とは完全に対応している。

1927年10月内地人職業別本業者（内地人本業者総数：154人）

- 1 農耕，園芸，畜産 男1（盤谷）
- 5 漁業，製塩業 男1（プケット）
- 8 採鉱冶金労働者 男3（プケット）
- 12 機械，機具製造 男1（盤谷）
- 15 洗張，染色，洗濯業 男3（盤谷2，チェンマイ他1）
- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 男2（盤谷）
- 23 製版，印刷，製本業 男11（盤谷）
- 28 物品販売業 男7（盤谷5，プケット2）
- 29 貿易商（店員社員を含まず）男3（盤谷）
- 31 媒介，周旋業 男4（盤谷）
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男34（盤谷30，プケット4）
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男3（盤谷2，シンゴラ・パタニ1），女1（盤谷）
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女7（盤谷）
- 36 理髪，髪結，浴場業 男5（盤谷）
- 37 其他の商業 男4（盤谷2，プケット1，シンゴラ・パタニ1）

- 39 鉄道従業者 男 1 (盤谷)
- 46 官公吏，雇傭 男 5 (盤谷)
- 47 宗教関係者 男 1 (盤谷)
- 48 教育関係者 男 3 (盤谷)
- 49 医務 男 14 (盤谷 7, プケット 2, シンガラ・パタニ 1, コラット 2, チェンマイ他 2), 女 2 (盤谷)
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男 14 (盤谷 8, プケット 2, ウボン 1, チェンマイ他 3)
- 54 その他の有業者 男 3 (盤谷 2, チェンマイ他 1)
- 56 家事被傭人 男 1 (盤谷), 女 4 (盤谷 2, プケット 2)
- 57 学生，練習生 男 1 (盤谷)
- 59 在監受刑者 男 1 (外に台湾人 3)
- 60 その他の無職業者，職業を申告せざる者 女 14 (盤谷 2, プケット 12)

シャムに多い理髪業，写真師，無資格医者

職業を 60 分類にしたことにより幾つかの異なる職種が，一つの番号で括られて判りにくくなった。シャムでは 36 番 (理髪，髪結，浴場業) は理髪に，52 番 (画家，彫刻家，音楽家，写真師) は写真師に限られていた。職業別本業者の統計から判るように，シャムで邦人に比較的多い職業は，理髪業，写真師，及び医務 (医者) である。

シャムの邦人医者の特徴は，日本の医師免許を有しない無資格医が多く，特にバンコク以外の地方の邦人医は殆ど無資格医であり売薬を兼ねる者が多かったことである。

タイで医業法 (Medical Act) が 1930 年代以降施行されるようになる前には，医業に関する規制はなく，誰でも自由に医業を開業できた。日本の医師免許を持たない日本人の開業も自由であった。また同法施行後と雖も，一定の経験を有する無資格医には二等西洋医として登録が認められ医師の資格が公認された。この結果，日本の医師免許を有さずに，シャムで医業を開業した者で，医業法の施行後二等西洋医として公認された者も少なくなかった筈である。

タイで洋式医学校が開校したのは 1890 年であるが，1921 年のロックフェラー財団の報告によると，当時のシャムには，洋式教育を受けた医師は約 450 人 (内 40 人は国外教育) しか存在していなかった。初めて医業法が公布されたのは 1923 年であるが，施行されたのは 7 年後の 1930 年になってからであり，当初はバンコク州に限って施行されたに過ぎない。

仏暦 2466 年 (1923 年) 医業法は，医業者の資格審査・登録制度を主眼とし，1921 年 10 月から内務省が立案を開始し，1923 年 11 月 16 日のタイ官報で公布された。しかし，公布後 4 年以上を経ても登録官を雇う予算 (2 万バーツ程度) がないことを理由にして施行されなかった。ナコンサワン親王が内務大臣に就任後強力に推進した結果，医業法改正と同法施行のための内務省令が 1929 年 6 月 12 日に公布された。同内務省令は，一定の医学校卒業生は一等西洋医として，学歴はなくとも技倆を認められた者は二等西洋医として登録することを定め，1930 年に初めてバンコク州で医師登録を実施した。登録対象地は 1931 年 6 月にアユタヤ州に拡大，32 年 1 月にはバンコク近隣のラートブリー，ナコンチャイシー，プラチンの 3 州に拡大した (タイ国立公文書館 5.7 頁 7/5)。1932 年立憲革命前までに医師の登録が実施されたのは中部タイのみである。それ以外の地域は，登録制度は未だ

なく、自由開業の状態が続いた。また、たとえ登録制が実施されても、無資格医が職を失うとは限らず、従来の医業の実績が認められれば二等西洋医として登録を受けることができた。このため医業法による登録実施地域が広がっても、日本人の無資格医が減ることはなく、寧ろ増大した。

なお、バンコクの邦人医は、江尻賢美、台湾人王鏡秋など日本の医師免許を有しない一部の例外者を除けば、日本の医師免許を有していた。戦前タイの日本人社会に於ける邦人医の比重の大きさは、1945年迄の泰国日本人会会長に三谷足平、河井為海、小川蔵太、江尻賢美の4名が就任していることにも示されている。

第31表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和3年10月1日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | プケット | シンゴラ・パタニ | ウボン | コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|-----------------|-------|-------|----------|-----|------|-------------|--------|
| 内地人 本業者(男:女) | 99:13 | 14:14 | 13:2 | 1:0 | 1:0 | 9:0 | 137:29 |
| 家族(男:女) | 34:53 | 1:6 | 2:11 | 0:0 | 1:1 | 4:5 | 42:76 |
| 内地人合計 | 199 | 35 | 28 | 1 | 3 | 18 | 284 |
| 朝鮮人 男:女 | 19:3 | | | | | | 19:3 |
| 台湾籍民 男:女 | 30:19 | | | | | 3:0 | 33:19 |
| 総計 | 270 | 35 | 28 | 1 | 3 | 21 | 358 |
| 前年同期との比較 | +23 | -1 | +23 | | +1 | +3 | +49 |
| 戸数 | 81 | 11 | 10 | 1 | 1 | 9 | 113 |

(出所：外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第二巻)

1928年10月内地人職業別本業者数(内地人本業者総数：166人)

- 1 農耕, 園芸, 畜産 男1(盤谷)
- 5 漁業, 製塩業 男2(盤谷1, プケット1)
- 8 採鉱冶金労働者 男2(プケット)
- 12 機械, 機具製造 男1(盤谷)
- 15 洗張, 染色, 洗濯業 男2(盤谷)
- 16 紙工業 男1(チェンマイ他)
- 20 被服, 身廻り品製造 男1(盤谷)
- 22 大工, 左官, 石工, ペンキ職 男2(盤谷1, チェンマイ他1)
- 23 製版, 印刷, 製本業 男6(盤谷)
- 28 物品販売業 男12(盤谷6, プケット3, シンゴラ・パタニ1, チェンマイ他2)
- 29 貿易商(店員社員を含まず) 男4(盤谷)
- 31 媒介, 周旋業 男3(盤谷)
- 33 会社員, 銀行員, 商店員, 事務員 男42(盤谷35, プケット4, シンゴラ・パタニ3)
- 34 旅宿, 料理, 貸席及芸妓業, 遊戯場, 興業場 男3(盤谷2, シンゴラ・パタニ1), 女2(盤谷)
- 35 芸妓, 娼妓, 酌婦其他 女3(盤谷)
- 36 理髪, 髪結, 浴場業 男6(盤谷)
- 37 其他の商業 男1(シンゴラ・パタニ)

- 39 鉄道従業者 男 1 (盤谷)
- 46 官公吏, 雇傭 男 5 (盤谷)
- 48 教育関係者 男 3 (盤谷)
- 49 医務 男 16 (盤谷 9, プケット 1, シンゴラ・パタニ 3, コラット 1, チェンマイ他 2), 女 1 (盤谷)
- 52 画家, 彫刻家, 音楽家, 写真師 男 15 (盤谷 6, プケット 2, シンゴラ・パタニ 4, ウボン 1, チェンマイ他 2)
- 54 其他の有業者 男 3 (盤谷 2, チェンマイ他 1)
- 56 家事被傭者 男 3 (盤谷), 女 9 (盤谷 5, プケット 2, シンゴラ・パタニ 2)
- 59 在監受刑者 男 1 (盤谷)
- 60 其他の無職業者, 職業を申告せざる者 男 1 (プケット), 女 14 (盤谷 2, プケット 12)

第 32 表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和 4 年 10 月 1 日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | プケット | シンゴラ・パタニ | ウドン | コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|------------------|-------|-------|----------|-----|------|-------------|--------|
| 内地人 本業者 (男:女) | 95:11 | 13:11 | 9:2 | 1:0 | 1:0 | 6:0 | 125:24 |
| 家族 (男:女) | 34:51 | 1:6 | 2:7 | 0:0 | 0:0 | 4:5 | 41:69 |
| 内地人合計 | 191 | 31 | 20 | 1 | 1 | 15 | 259 |
| 朝鮮人 男:女 | 15:1 | | | | | | 15:1 |
| 台湾籍民 男:女 | 27:19 | | | | | 3:0 | 30:19 |
| 総計 | 253 | 31 | 20 | 1 | 1 | 18 | 324 |
| 前年同期との比較 | -17 | -4 | -8 | | -2 | -3 | -34 |
| 戸数 | 69 | 10 | 5 | 1 | 1 | 6 | 92 |

(出所: 外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第三卷)

1929 年 10 月内地人職業別本業者数 (内地人本業者総数: 149 人)

- 1 農耕, 園芸, 畜産 男 1 (盤谷)
- 2 同労働者 男 1 (盤谷)
- 5 漁業, 製塩業 男 1 (プケット)
- 8 採鉱冶金業者労働者 男 2 (プケット)
- 12 機械, 機具製造 男 1 (盤谷)
- 15 洗張, 染色, 洗濯業 男 1 (盤谷)
- 20 被服, 身廻り品製造 男 1 (盤谷)
- 22 大工, 左官, 石工, ペンキ職 男 2 (盤谷 1, チェンマイ他 1)
- 23 製版, 印刷, 製本業 男 6 (盤谷)
- 28 物品販売業 男 10 (盤谷 5, プケット 3, シンゴラ・パタニ 1, チェンマイ他 1)
- 29 貿易商 (店員社員を含まず) 男 6 (盤谷)
- 31 媒介, 周旋業 男 3 (盤谷)
- 33 会社員, 銀行員, 商店員, 事務員 男 39 (盤谷 33, プケット 4, シンゴラ・パタニ 2)
- 34 旅宿, 料理, 貸席及芸妓業, 遊戯場, 興業場 男 3 (盤谷 2, シンゴラ・パタニ 1), 女 1 (盤谷)

- 35 芸妓, 娼妓, 酌婦其他 女 2 (盤谷)
- 36 理髪, 髪結, 浴場業 男 5 (盤谷), 女 1 (盤谷)
- 37 其他の商業 男 1 (シンゴラ・パタニ)
- 39 鉄道従業者 男 1 (盤谷)
- 43 運輸取扱業 男 1 (盤谷)
- 46 官公吏, 雇傭 男 5 (盤谷)
- 48 教育関係者 男 3 (盤谷)
- 49 医務 男 12 (盤谷 7, プケット 1, シンゴラ・パタニ 2, コラット 1, チェンマイ他 1), 女 2 (盤谷)
- 52 画家, 彫刻家, 音楽家, 写真師 男 12 (盤谷 6, プケット 1, シンゴラ・パタニ 2, ウドン 1, チェンマイ他 2)
- 54 其他の有業者 男 3 (盤谷 2, チェンマイ他 1)
- 56 家事被傭者 男 2 (盤谷), 女 7 (盤谷 3, プケット 2, シンゴラ・パタニ 2)
- 57 学生, 練習生 男 1 (盤谷)
- 59 在監受刑者 男 1 (盤谷)
- 60 其他の無職業者, 職業を申告せざる者 男 1 (プケット), 女 11 (盤谷 2, プケット 9)

第 33 表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和 5 年 10 月 1 日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | プケット | シンゴラ | パタニ | ウドン・コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|------------------|--------|------|------|-----|----------|-------------|--------|
| 内地人 本業者 (男:女) | 102:16 | 4:2 | 9:0 | 8:3 | 3:0 | 4:0 | 130:21 |
| 家族 (男:女) | 42:62 | 0:2 | 2:12 | 1:4 | 0:0 | 2:2 | 47:82 |
| 内地人合計 | 222 | 8 | 23 | 16 | 3 | 8 | 280 |
| 朝鮮人 男:女 | 14:1 | | | 1:0 | | | 15:1 |
| 台湾籍民 男:女 | 37:20 | 4:2 | | | | 2:0 | 43:22 |
| 総計 | 294 | 14 | 23 | 17 | 3 | 10 | 361 |
| 前年同期との比較 | +41 | -17 | +11 | +9 | +1 | -8 | +37 |
| 戸数 | 63 | 4 | 9 | 10 | 3 | 4 | 93 |

(出所: 外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第四巻)

なお、外務省通商局刊『昭和五年在外本邦人国勢調査職業別人口表』23 頁は、暹羅国の内地人数 336 (232:104)、朝鮮人 15 (14:1)、台湾人 65 (45:20)、総数 416 (291:125) と記している。昭和五年の上記領事報告では、内地人 280 であり、国勢調査の方が 56 人も多い。これは国勢調査では船員等をも含んでいるためと思われる。

以下、主要な本業者のみを選択して掲載する。

1930 年 10 月内地人主要職業別本業者数

- 1 農耕, 園芸, 畜産 男 1 (盤谷)
- 8 採鉱冶金業労働者 男 4 (プケット 2, シンゴラ 2)
- 11 金属工業 男 2 (盤谷)
- 15 洗張, 染色, 洗濯業 男 2 (盤谷 1, プケット 1)

- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 男1（盤谷）
- 23 製版，印刷，製本業 男4（盤谷）
- 28 物品販売業 男8（盤谷4，ポケット1，シンゴラ2，パタニ1）
- 29 貿易商（店員社員を含まず） 男7（盤谷）
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男37（盤谷36，パタニ1）
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男3（盤谷2，シンゴラ1），女2（盤谷）
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女4（盤谷）
- 36 理髪，髪結，浴場業 男8（盤谷7，パタニ1），女2（盤谷）
- 45 陸海軍人 男1（盤谷）
- 46 官公吏，雇傭 男5（盤谷）
- 47 宗教関係者 男1（盤谷）
- 48 教育関係者 男3（盤谷），女1（盤谷）
- 49 医務 男17（盤谷9，シンゴラ3，パタニ4，ウドン・コラット1），女2（盤谷）
- 51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 男1（盤谷）
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男13（盤谷6，シンゴラ1，ウドン・コラット2，チェンマイ他4）
- 56 家事被傭者 男3（盤谷），女7（盤谷4，ポケット2，パタニ1）

第34表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和6年10月1日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | ポケット | シンゴラ | パタニ | ウドン・コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|-----------------|--------|------|------|-----|----------|-------------|--------|
| 内地人 本業者（男：女） | 112：16 | 5：1 | 7：0 | 8：1 | 2：0 | 6：0 | 140：18 |
| 家族（男：女） | 43：74 | 1：4 | 3：12 | 2：5 | 0：1 | 2：4 | 51：100 |
| 内地人合計 | 245 | 11 | 22 | 16 | 3 | 12 | 309 |
| 朝鮮人 男：女 | 11：1 | | | 1：0 | | | 12：1 |
| 台湾籍民 男：女 | 48：25 | 4：2 | | | | 2：0 | 54：27 |
| 総計 | 330 | 17 | 22 | 17 | 3 | 14 | 403 |
| 前年同期との比較 | +36 | +3 | -1 | | | +4 | +42 |
| 戸数 | 72 | 5 | 10 | 6 | 3 | 4 | 100 |

（出所：外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第五巻）

1931年10月内地人主要職業別本業者数

- 8 採鉱冶金業労働者 男3（ポケット2，シンゴラ1）
- 11 金属工業 男3（盤谷）
- 13 化学工業 男1（盤谷）
- 15 洗張，染色，洗濯業 男2（盤谷1，ポケット1）
- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 男3（盤谷）
- 23 製版，印刷，製本業 男7（盤谷）
- 28 物品販売業 男11（盤谷7，ポケット1，シンゴラ2，パタニ1）
- 29 貿易商（店員社員を含まず） 男6（盤谷）

- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男 34（盤谷）
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男 3（盤谷 2，シンゴラ 1），女 3（盤谷）
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女 5（盤谷）
- 36 理髪，髪結，浴場業 男 9（盤谷 8，パタニ 1）
- 45 陸海軍人 男 1（盤谷）
- 46, 官公吏，雇傭 男 7（盤谷）
- 47 宗教関係者 男 2（盤谷），女 1（盤谷）
- 48 教育関係者 男 2（盤谷）
- 49 医務 男 19（盤谷 10，シンゴラ 1，パタニ 6，ウドン・コラット 1，チェンマイ他 1），女 2（盤谷）
- 51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 男 1（盤谷）
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男 16（盤谷 7，ポケット 1，シンゴラ 2，ウドン・コラット 1，チェンマイ他 5）
- 56 家事被傭者 男 6（盤谷），女 7（盤谷 5，ポケット 1，パタニ 1）

第 35 表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和 7 年 10 月 1 日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | ポケット | シンゴラ | パタニ | ウドン・コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|----------|--------|------|------|------|----------|-------------|--------|
| 内地人 | | | | | | | |
| 本業者（男：女） | 113：13 | 6：0 | 7：1 | 12：1 | 1：0 | 5：0 | 144：15 |
| 家族（男：女） | 38：65 | 1：1 | 4：8 | 2：7 | 0：1 | 2：2 | 47：84 |
| 内地人合計 | 229 | 8 | 20 | 22 | 2 | 9 | 290 |
| 朝鮮人 男：女 | 4：0 | | | 1：1 | | | 5：1 |
| 台湾籍民 男：女 | 46：17 | 4：2 | | | | | 50：19 |
| 総計 | 296 | 14 | 20 | 24 | 2 | 9 | 365 |
| 前年同期との比較 | -34 | -3 | -2 | +7 | -1 | -5 | -38 |
| 戸数 | 81 | 4 | 8 | 8 | 1 | 3 | 105 |

（出所：外務省記録 K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」第六巻）

1932 年 10 月内地人主要職業別本業者数

- 5 漁業，製塩業 男 1（盤谷）
- 6 漁業，製塩業労働者 男 1（ポケット）
- 11 金属工業 男 1（盤谷）
- 15 洗張，染色，洗濯業 男 2（盤谷 1，ポケット 1）
- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 男 3（盤谷）
- 23 製版，印刷，製本業 男 7（盤谷）
- 28 物品販売業 男 8（盤谷 4，シンゴラ 2，パタニ 2）
- 29 貿易商（店員社員を含まず）男 7（盤谷）
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男 32（盤谷）
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男 1（盤谷），女 3（盤谷 1，シンゴラ 1，パタニ 1）
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女 10（盤谷）

- 36 理髪，髪結，浴場業 男 6（盤谷）
- 46 官公吏，雇傭 男 9（盤谷）
- 47 宗教関係者 男 2（盤谷）
- 48 教育関係者 男 2（盤谷），女 1（盤谷）
- 49 医務 男 22（盤谷 8，ポケット 1，シンゴラ 3，パタニ 8，ウドン・コラット 1，チェンマイ他 1）
- 51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 男 2（盤谷）
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男 13（盤谷 7，ポケット 1，シンゴラ 1，チェンマイ他 4）
- 56 家事被傭者 男 9（盤谷），女 1（盤谷）
- 57 学生，練習生 男 1（盤谷）

第 36 表 シヤム在留本邦人職業別人口表 昭和 8 年 10 月 1 日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | ポケット | シンゴラ | パタニ | ウドン・コラット | チェンマイ その他 | 合計 |
|----------|-------|------|------|------|----------|--------------|--------|
| 内地人 | | | | | | | |
| 本業者（男：女） | 118：8 | 6：0 | 9：1 | 10：1 | 1：0 | 6：0 | 150：10 |
| 家族（男：女） | 47：66 | 1：4 | 7：11 | 3：6 | 0：0 | 4：2 | 62：89 |
| 内地人合計 | 239 | 11 | 28 | 20 | 1 | 12 | 311 |
| 朝鮮人 男：女 | 3：0 | | | 2：0 | | | 5：0 |
| 台湾籍民 男：女 | 47：18 | 4：2 | | | | | 51：20 |
| 総計 | 307 | 17 | 28 | 22 | 1 | 12 | 387 |
| 前年同期との比較 | +11 | +3 | +8 | -2 | -1 | +3 | +22 |
| 戸数 | 84 | 6 | 10 | 8 | 1 | 6 | 115 |

（出所：外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第七巻）

1933 年 10 月内地人主要職業別本業者数（内地人本業者総数：160 人）

- 5 漁業，製塩業 男 3（盤谷）
- 6 漁業，製塩業労働者 男 14（盤谷 13，ポケット 1）
- 11 金属工業 男 1（盤谷）
- 15 洗張，染色，洗濯業 男 3（盤谷 1，ポケット 1，パタニ 1）
- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 男 2（盤谷）
- 23 製版，印刷，製本業 男 6（盤谷）
- 28 物品販売業 男 3（シンゴラ 2，パタニ 1）
- 29 貿易商（店員社員を含まず）男 9（盤谷）
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男 35（盤谷）
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男 4（盤谷 3，パタニ 1），女 5（盤谷 3，シンゴラ 1，パタニ 1）
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 0
- 36 理髪，髪結，浴場業 男 6（盤谷 4，パタニ 1，チェンマイ他 1）
- 46 官公吏，雇傭 男 9（盤谷）
- 47 宗教関係者 男 2（盤谷）

- 48 教育関係者 男 2 (盤谷)
- 49 医務 男 24 (盤谷 12, シンゴラ 5, パタニ 6, チェンマイ他 1)
- 51 新聞雑誌記者, 通信員, 著述者 男 1 (盤谷)
- 52 画家, 彫刻家, 音楽家, 写真師 男 13 (盤谷 5, プケット 2, シンゴラ 1, ウドン・コラット 1, チェンマイ他 4)
- 56 家事被傭者 男 5 (盤谷), 女 4 (盤谷)
- 57 学生, 練習生 男 1 (盤谷)

第 37 表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和 9 年 10 月 1 日現在 盤谷領事

| | 盤谷 | プケット | シンゴラ | パタニ | ウドン・コラット | チェンマイ 其他 | 合計 |
|------------------|--------|------|------|-----|----------|-------------|--------|
| 内地人 本業者 (男:女) | 158:16 | 4:0 | 9:1 | 9:1 | 1:0 | 8:0 | 189:18 |
| 家族 (男:女) | 53:82 | 1:3 | 7:11 | 2:5 | | 4:2 | 67:103 |
| 内地人合計 | 309 | 8 | 28 | 17 | 1 | 14 | 377 |
| 朝鮮人 男:女 | 3:0 | | | 2:0 | | | 5:0 |
| 台湾人 男:女 | 42:27 | 5:2 | | | | | 47:29 |
| 総計 | 381 | 15 | 28 | 19 | 1 | 14 | 458 |
| 前年同期との比較 | +74 | -2 | | -2 | | +2 | +72 |
| 戸数 | 132 | 7 | 10 | 7 | 1 | 7 | 164 |

(出所: 外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」 第八卷)

なお、外務省調査部刊『海外各地在留本邦人人口表 (昭和 9 年 10 月 1 日現在)』では、内地人合計を 389 人と記している。上記 37 表では内地人合計は 377 人であり、12 人の乖離がある。

1934 年 10 月内地人主要職業別本業者数 (内地人本業者総数: 220 人)

- 5 漁業, 製塩業 男 3 (盤谷 3)
- 6 漁業, 製塩業労働者 男 52 (盤谷 51, プケット 1)
- 11 金属工業 男 1 (盤谷)
- 15 洗張, 染色, 洗濯業 男 3 (盤谷 1, プケット 1, パタニ 1)
- 23 製版, 印刷, 製本業 男 6 (盤谷)
- 29 貿易商 (店員社員を含まず) 男 9 (盤谷)
- 33 会社員, 銀行員, 商店員, 事務員 男 42 (盤谷), 女 1 (盤谷)
- 34 旅宿, 料理, 貸席及芸妓業, 遊戯場, 興業場 男 4 (盤谷 3, パタニ 1), 女 5 (盤谷 3, シンゴラ 1, パタニ 1)
- 36 理髪, 髪結, 浴場業 男 6 (盤谷 4, パタニ 1, チェンマイ他 1)
- 45 陸海軍軍人 男 2 (盤谷)
- 46 官公吏, 雇傭 男 10 (盤谷)
- 47 宗教関係者 男 2 (盤谷)
- 48 教育関係者 男 2 (盤谷)
- 49 医務 男 25 (盤谷 13, シンゴラ 5, パタニ 6, チェンマイ他 1), 女 5 (盤谷)

51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 男1（盤谷）

52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男13（盤谷5，プケット2，シンゴラ1，ウドン・コラット1，チェンマイ他4）

56 家事被傭人 男6（盤谷），女6（盤谷）

57 学生，練習生 男1（盤谷）

第38表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和10年10月1日現在 盤谷総領事

| | 盤谷 | プケット | バンドン・シンゴラ | ヤラ・ナラチワット・パタニ | ウドン・コラット | チェンマイ | 合計 |
|-----------------|--------|------|-----------|---------------|----------|-------|--------|
| 内地人 本業者（男：女） | 197：16 | 7：0 | 6：0 | 13：0 | 1：0 | 7：0 | 231：16 |
| 家族（男：女） | 46：80 | 2：5 | 8：7 | 3：6 | 0：0 | 4：4 | 63：102 |
| 内地人合計 | 339 | 14 | 21 | 22 | 1 | 15 | 412 |
| 朝鮮人 | | | | | | | 0 |
| 台湾人 男：女 | 44：38 | 5：2 | | | | | 49：40 |
| 総計 | 421 | 21 | 21 | 22 | 1 | 15 | 501 |
| 前年同期との比較 | +31 | +5 | -8 | +3 | | +1 | +33 |
| 戸数 | 145 | 10 | 7 | 9 | 1 | 7 | 179 |

（出所：外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第九巻）

1935年10月内地人主要職業別本業者数（内地人本業者総数：247人）

5 漁業，製塩業 男3（盤谷2，プケット1）

6 漁業，製塩業労働者 男52（盤谷）

7 採鉱冶金業 男1（ヤラ・ナラチワット・パタニ）

8 採鉱冶金業労働者 男4（プケット1，バンドン・シンゴラ1，ヤラ・ナラチワット・パタニ2）

12 機械・機具製造 男1（盤谷1，プケット1）

15 洗張，染色，洗濯業 男2（盤谷）

22 大工，左官，石工，ペンキ職 男1（盤谷1）

23 製版，印刷，製本業 男7（盤谷）

28 物品販売業 0

29 貿易商（店員社員を含まず）男14（盤谷13，バンドン・シンゴラ1）

33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男52（盤谷），女1（盤谷）

34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男7（盤谷6，ヤラ・ナラチワット・パタニ1），女3（盤谷）

35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女4（盤谷）

36 理髪，髪結，浴場業 男6（盤谷4，ヤラ・ナラチワット・パタニ1，チェンマイ1）

45 陸海軍人 男2（盤谷）

46 官公吏，雇傭 男9（盤谷）

47 宗教関係者 男3（盤谷）

48 教育関係者 男7（盤谷）

- 49 医務 男 29 (盤谷 16, プケット 2, バンドン・シンゴラ 3, ヤラ・ナラチワット・パタニ 7, チェンマイ 1), 女 2 (盤谷)
- 51 新聞雑誌記者, 通信員, 著述者 男 1 (盤谷)
- 52 画家, 彫刻家, 音楽家, 写真師 男 11 (盤谷 4, プケット 1, バンドン・シンゴラ 1, ウドン・コラット 1, チェンマイ 4)
- 56 家事被傭者 男 (盤谷) 2, 女 6 (盤谷)
- 57 学生, 練習生 男 2 (盤谷)

第 39 表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和 11 年 10 月 1 日現在 盤谷総領事

| | 盤谷 | プケット | チャイヤ・ バンドン・ シンゴラ | ナラチ ワット・ パタニ | ウドン・ コラット | チェンマイ その他 | 合計 |
|------------------|--------|------|------------------------|--------------------|--------------|--------------|--------|
| 内地人 本業者 (男:女) | 188:14 | 6:0 | 5:0 | 13:0 | 1:0 | 9:0 | 222:14 |
| 家族 (男:女) | 65:108 | 2:5 | 8:6 | 3:6 | 0:0 | 4:4 | 82:129 |
| 内地人合計 | 375 | 13 | 19 | 22 | 1 | 17 | 447 |
| 朝鮮人 | | | | | | | 0 |
| 台湾人 男:女 | 44:38 | 5:2 | | | | 3:0 | 52:40 |
| 総計 | 457 | 20 | 19 | 22 | 1 | 20 | 539 |
| 前年同期との比較 | +36 | -1 | -2 | | | +5 | +38 |
| 戸数 | 173 | 9 | 5 | 13 | 1 | 11 | 212 |

(出所: 外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」第十卷)

1936 年 10 月内地人主要職業別本業者数 (内地人本業者総数: 236 人)

- 1 農耕, 園芸, 畜産 男 2 (チェンマイ他)
- 5 漁業, 製塩業 0
- 6 漁業, 製塩業労働者 0
- 7 採鉱冶金業 男 1 (ナラチワット・パタニ)
- 8 採鉱冶金業労働者 男 3 (プケット 1, ナラチワット・パタニ 2)
- 15 洗張, 染色, 洗濯業 男 3 (盤谷 1, プケット 1, チャイヤ・バンドン・シンゴラ 1)
- 23 製版, 印刷, 製本業 男 7 (盤谷)
- 29 貿易商 (店員社員を含まず) 男 18 (盤谷 17, チャイヤ・バンドン・シンゴラ 1)
- 33 会社員, 銀行員, 商店員, 事務員 男 88 (盤谷)
- 34 旅宿, 料理, 貸席及芸妓業, 遊戯場, 興業場 男 5 (盤谷 4, ナラチワット・パタニ 1), 女 4 (盤谷)
- 36 理髪, 髪結, 浴場業 男 5 (盤谷 3, ナラチワット・パタニ 1, チェンマイ他 1)
- 45 陸海軍人 男 2 (盤谷)
- 46 官公吏, 雇傭 男 8 (盤谷)
- 47 宗教関係者 男 2 (盤谷)
- 48 教育関係者 男 4 (盤谷)
- 49 医務 男 34 (盤谷 22, プケット 2, チャイヤ・バンドン・シンゴラ 2, ナラチワット・パタニ 7, チェンマイ他 1), 女 1 (盤谷)

- 51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 男2（盤谷）
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男12（盤谷5，ポケット1，チャイヤ・バンドン・シンゴラ1，ウドン・コラット1，チェンマイ他4）
- 56 家事被傭人 男13（盤谷），女7（盤谷）
- 57 学生，練習生 男1（盤谷）

第40表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和12年10月1日現在 盤谷総領事

| | 盤谷 | ポケット | チャイヤ・ バンドン・ シンゴラ | ナラチワット・ パタニ | ウドン・ コラット | チェンマイ その他 | 合計 |
|-----------------|--------|------|------------------------|----------------|--------------|--------------|--------|
| 内地人 本業者（男：女） | 211：15 | 7：1 | 6：2 | 19：1 | 1：0 | 9：0 | 253：19 |
| 家族（男：女） | 52：109 | 4：5 | 6：7 | 3：8 | 0：0 | 5：5 | 70：134 |
| 内地人合計 | 387 | 17 | 21 | 31 | 1 | 19 | 476 |
| 朝鮮人 | | | | | | | |
| 台湾籍民男・女 | 59：24 | 4：2 | 1：0 | 0：0 | 0：0 | 4：2 | 68：28 |
| 総計 | 470 | 23 | 22 | 31 | 1 | 25 | 572 |
| 前年同期との比較 | +13 | +3 | +3 | +9 | | +5 | +33 |
| 戸数 | 186 | 9 | 9 | 20 | 1 | 11 | 236 |

（出所：外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」第十二巻）。

上記第40表の内地人合計（本業者及家族）の合計は476人だが，外務省調査部刊『海外各地在留本邦内地人職業別人口表（昭和12年10月1日現在）』では，521人（男368：女153）と記載しており45名もの差異がある。

1937年10月内地人主要職業別本業者数（内地人本業者総数：317人）

- 1 農耕，園芸，畜産 男2（ナラチワット・パタニ1，チェンマイ他1）
- 5 漁業製塩業 0
- 6 同労働者 0
- 11 金属工業 0
- 12 機械機具製造 0
- 15 洗張，染色，洗濯業 男3（盤谷1，ポケット1，ナラチワット・パタニ1）
- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 0
- 23 製版，印刷，製本業 男7（盤谷）
- 28 物品販売業 男30（盤谷27，チャイヤ・バンドン・シンゴラ2，ナラチワット・パタニ1）
- 29 貿易商（店員社員を含まず）男16（盤谷）
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男142（盤谷125，ポケット5，チャイヤ・バンドン・シンゴラ1，ナラチワット・パタニ8，チェンマイ他3）
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男5（盤谷），女6（盤谷4，チャイヤ・バンドン・シンゴラ1，ナラチワット・パタニ1）
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女2（盤谷）

- 36 理髪，髪結，浴場業 男 5（盤谷 3，ナラチワット・パタニ 1，チェンマイ他 1）
- 45 陸海軍人 男 2（盤谷）
- 46 官公吏，雇傭 男 9（盤谷）
- 47 宗教関係者 男 1（盤谷）
- 48 教育関係者 男 5（盤谷）
- 49 医務 男 32（盤谷 17，プケット 2，チャイヤ・バンドン・シンゴラ 3，ナラチワット・パタニ 7，チェンマイ他 3），女 1（盤谷）
- 51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 男 3（盤谷）
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男 9（盤谷 4，チャイヤ・バンドン・シンゴラ 1，ウドン・コラット 1，チェンマイ他 3）
- 56 家事被傭者 男 9（盤谷），女 5（盤谷）
- 57 学生，練習生 男 3（盤谷）

（参考）シャム第 4 回国勢調査（1937 年 5 月 23 日実施）による在タイ日本国籍人数

内務省『仏暦 2480 年人口センサス 第 2 巻 人口諸分類』（การสำรวจสำมะโนครัวทั่วราชอาณาจักร จักรพรรดิราช ๒๔๘๐ ประชากร เล่มที่ ๒ ประชากรจำแนกตามลักษณะต่างๆ รวบรวมโดย กองทะเบียน กรมมหาดไทย กระทรวงมหาดไทย）の 38 頁，第 3 表「全国の性別・国籍別人口」では，日本国籍者は，男 339 人，女 175 人，合計 514 人と記している。

上記人口センサスの 44-74 頁掲載の第 5 表「各県別の性別・国籍別人口」から各県別に取り出した日本国籍者数は以下の通りである。

| 県名 | 男性（人） | 女性（人） | 合計（人） |
|-------------|-------|-------|-------|
| バンコク | 270 | 138 | 408 |
| チョンブリー | 6 | 2 | 8 |
| ナコンパトム | 2 | 0 | 2 |
| チェンマイ | 10 | 5 | 15 |
| ブレー | 2 | 3 | 5 |
| ナコンラーチャシーマー | 8 | 0 | 8 |
| ウボン | 2 | 1 | 3 |
| スラートターニー | 1 | 3 | 4 |
| ナコンシータマラート | 4 | 6 | 10 |
| プーケット | 5 | 3 | 8 |
| ソンクラ | 3 | 4 | 7 |
| ヤラー | 2 | 2 | 4 |
| バッターニー | 2 | 1 | 3 |
| ナラティワート | 12 | 4 | 16 |
| 計 | 329 | 172 | 501 |

この表では，日本国籍者は，男 329 人，女 172 人，合計 501 人となり，上記の合計 514 人よりは少ない。盤谷領事報告からは判らないが，この表からはバンコク近県の，チョンブリー，ナコンパトムにも邦人が居住していることが判る。バンコク以外の地方在住日本国籍者は，合計 93 人，その地

域を見ると中部タイ2県10人，北タイ2県20人，東北タイ2県11人，南タイ7県52人で，南タイが多いことが判る。

なお，1937年のシャム人口センサスの邦人数は盤谷領事が報告した上記第40表（1937年10月1日）の本邦人（内地人・朝鮮人・台湾籍民の合計）572人（男391：女181）に比し，かなり少ない。

昭和13年の盤谷領事の報告は，外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」第13巻及び第14巻（昭和13年度）中には見当たらない。しかし，外務省調査部刊『海外各地在留本邦内地人職業別人口表（昭和13年10月1日現在）』中の「在外本邦内地人国別及職業別細分類人口一覧」（第5表）の暹羅国によると，内地人総数522人（本業者298人，家族224人，男351：女171）であり，この数字は，上記外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」第15巻（昭和14年）中に保存されている報告書（但し公信欠）と一致する。これから，同15巻中に保存されている報告書は，昭和14年のものではなく昭和13年のものが紛れ込んだものであることは明白である。

第41表 シャム在留本邦人職業別人口表 昭和13年10月1日現在 盤谷総領事

| | 盤谷 | ポケット | バンドン・シンゴラ | バンナラ・パタニ | コラット | チェンマイ 其の他 | 合計 |
|----------|--------|------|-----------|----------|------|--------------|--------|
| 内地人計 | | | | | | | |
| 本業者（男：女） | 224：22 | 9：1 | 9：2 | 18：1 | 1：0 | 11：0 | 272：26 |
| 家族（男：女） | 54：113 | 7：7 | 6：9 | 4：8 | 0：0 | 8：8 | 79：145 |
| 内地人合計 | 413 | 24 | 26 | 31 | 1 | 27 | 522 |
| 朝鮮人 男：女 | 1：0 | | | | | | 1：0 |
| 台湾籍民 男：女 | 71：26 | 4：2 | 1：0 | | | 5：3 | 81：31 |
| 総計 | 511 | 30 | 27 | 31 | 1 | 35 | 635 |
| 前年同期との比較 | +51 | +7 | +5 | | | +10 | +73 |
| 戸数 | 191 | 10 | 10 | 21 | 1 | 11 | 244 |

（出所：外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」第十五巻）

1938年10月内地人職業別本業者全数（内地人本業者総数298人，男272：女26）

- 1 農耕，園芸，畜産 男1（バンナラ・パタニ1）
- 5 漁業，製塩業 0
- 6 漁業，製塩業同労働者 0
- 11 金属工業 男1（盤谷）
- 12 機械機具製造 0
- 15 洗張，染色，洗濯業 男3（盤谷1，ポケット1，バンナラ・パタニ1）
- 20 被服，身廻り品製造 男1（盤谷）
- 22 大工，左官，石工，ペンキ職 0
- 23 製版，印刷，製本業 男7（盤谷）
- 28 物品販売業 男14（盤谷9，バンドン・シンゴラ2，バンナラ・パタニ1，チェンマイ他2）
- 29 貿易商（店員社員を含まず）男12（盤谷）
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男147（盤谷127，ポケット6，バンドン・シンゴラ3，バンナラ・パタニ8，チェンマイ他3）

- 34 旅宿, 料理, 貸席及芸妓業, 遊戯場, 興業場 男7(盤谷), 女5(盤谷3, バンドン・シンゴラ1, バンナラ・パタニ1)
- 35 芸妓, 娼妓, 酌婦其他 女9(盤谷)
- 36 理髪, 髪結, 浴場業 男4(盤谷3, バンナラ・パタニ1)
- 39 鉄道従業者 男1(盤谷)
- 45 陸海軍人 男2(盤谷)
- 46 官公吏, 雇傭 男11(盤谷)
- 47 宗教関係者 男2(盤谷)
- 48 教育関係者 男7(盤谷)
- 49 医務 男29(盤谷15, プケット2, バンドン・シンゴラ3, バンナラ・パタニ6, チェンマイ他3), 女1(盤谷)
- 51 新聞雑誌記者, 通信員, 著述者 0
- 52 画家, 彫刻家, 音楽家, 写真師 男8(盤谷3, バンドン・シンゴラ1, コラット1, チェンマイ他3)
- 56 家事被傭者 男14(盤谷), 女8(盤谷)
- 57 学生, 練習生 男1(盤谷)
- 60 其他の無職業者, 職業を申告せざる者 女3(盤谷1, プケット1, バンドン・シンゴラ1)

1939年10月1日現在の盤谷総領事からの報告は、外務省記録K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」中には保存されていないので、外務省調査部刊『海外各地在留本邦内地人職業別人口表(昭和14年10月1日現在)』中の「在外本邦内地人国別及職業別細分類人口一覧」(第5表)の暹羅国の部分及び「在外本邦内地人在外公館別及職業別(細分類)人口」(第7表)から下記する。

暹羅国(当時はタイ国と改名後だが)の、1939年10月1日現在の内地人総数は576人(本業者410人, 家族166人)である。

1939年10月1日時点の内地人本業者全数410人(男387:女23)の内訳は、

- 1 農耕, 園芸, 畜産 男3
- 2 農耕, 園芸, 畜産労働者 男7
- 7 採鉱冶金業 男2
- 8 採鉱冶金業労働者 男2
- 12 機械, 機具製造 男1
- 15 洗張, 染色, 洗濯業 男3, 女1
- 20 被服, 身廻り品製造 男1
- 21 土木建築業 女10
- 23 製版, 印刷, 製本業 男5
- 26 其他の工業 男26
- 27 工場労働者 男86
- 28 物品販売業 男16, 女1

- 29 貿易商（店員社員を含まず） 男 10
- 31 媒介，周旋業 男 2
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男 124
- 34 旅館，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興行場 男 5，女 2
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 0
- 36 理髪，髪結，浴場業 男 5
- 39 鉄道従業者 男 1
- 45 陸海軍人 男 2
- 46 官公吏，雇傭 男 11
- 47 宗教関係者 男 1
- 48 教育関係者 男 6，女 1
- 49 医務 男 31，女 1
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男 7
- 53 其他の自由業 男 4
- 55 其他の有業者 男 5
- 56 家事被傭人 男 9，女 16
- 57 学生，練習生 男 2
- 60 其他の無職業者，職業を申告せざる者 女 1

1940年10月1日現在の盤谷総領事からの報告も，前年同様に外務省記録 K.3.7.0/7 「在外本邦人職業別人口表一件」中には保存されていないので，外務省調査部刊『海外各地在留本邦内地人職業別人口表（昭和15年10月1日現在）』（昭和16年10月刊行）中の「在外本邦内地人国別及職業別細分類人口一覧」（第5表）の泰国の部分及び「在外本邦内地人在外公館別及職業別（細分類）人口」（第7表）から下記する。

泰国の1940年10月1日現在の内地人総数は587人（本業者403人，家族184人，男420人：女167人）である。

1940年10月1日の内地人本業者全数403人（男369：女34）の内訳は，

- 1 農耕，園芸，畜産 0
- 2 農耕，園芸，畜産労働者 男 11
- 7 採鉱冶金業 男 1
- 8 採鉱冶金業労働者 男 5
- 12 機械機具製造 男 1
- 15 洗張，染色，洗濯業 男 2
- 19 飲食料品，嗜好品製造 男 1
- 20 被服身廻り品製造 男 1
- 23 製版，印刷，製本業 男 3

- 27 工場労働者 男 11
- 28 物品販売業 男 42
- 29 貿易商（店員社員を含まず） 男 24
- 31 媒介，周旋業 女 1
- 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 男 164
- 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 男 7，女 2
- 35 芸妓，娼妓，酌婦其他 女 21
- 36 理髪，髪結，浴場業 男 6
- 37 其他の商業 男 2
- 39 鉄道従業者 男 1
- 43 運輸取扱業 男 1
- 45 陸海軍人 男 2
- 46 官公吏，雇傭 男 16
- 47 宗教関係者 男 1
- 48 教育関係者 男 5，女 1
- 40 医務 男 38，女 3
- 51 新聞雑誌記者，通信員，著述業 男 4
- 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 男 3
- 54 其他の労働者 男 7，女 1
- 56 家事被傭人 男 10，女 3
- 57 学生，練習生 0
- 60 其他の無職業者，職業を申告せざる者 女 2

昭和 16 年 10 月に印刷された上記昭和 15 年 10 月 1 日現在の報告書は，内地人のみを取り上げ，朝鮮人台湾籍民の統計は掲載していない。

外務省記録 K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」の第 16 巻中には，外務省調査局編『昭和十五年海外在留本邦人調査結果表』（昭和 18 年 12 月 28 日発行，570 頁）が，保存されているが，同書 1 頁に拠れば，昭和 15 年の泰国内地人は世帯数 317，人口 566（男 399：女 167），朝鮮人は世帯数 7，人口 12（男 10：女 2），台湾人は世帯数 52，人口 154（男 99：女 55）と記されている。

外務省記録 K.3.7.0/7「在外本邦人職業別人口表一件」に保存されている盤谷総領事の報告書の中で，最後のものは第 18 巻中にある，1941 年 10 月 1 日現在のものである。

1942 年 5 月 5 日在盤谷総領事内山清は，外務大臣東郷茂徳に下記を報告した。

領普通公第 36 号，昭和 17 年 5 月 5 日，在盤谷総領事 内山清
外務大臣東郷茂徳殿

「昭和 16 年度在留本邦人職業別人口表送付の件」

昭和 16 年 10 月 1 日現在に於ける当館管内在留邦人職業別人口調査表 2 部茲に送付す

1897-1945 年における在タイ日本人の人数，職業の推移

尚前年同期との比較欄に就ては昭和 15 年度以前の当館記録を今次戦争勃発直前本省へ一括送付せるに付当方に記録無きを以て計上すること得ざるに付右様御了知相成度右為念申添ふ。

これに添付された人口調査表が下記第 42 表である。

第 42 表 タイ在留本内地職業別人口表 昭和 16 年 10 月 1 日現在盤谷総領事

| | 本業者数 (男：女) | 家族 (男：女) |
|-------------------------|------------|----------|
| 本邦内地人 合計 1105 人 | 718 : 58 | 92 : 231 |
| 盤谷 内地人 936 人 | 684 : 56 | 73 : 123 |
| 戸数 408 | | |
| 朝鮮人 男 2 : 女 3 | | |
| 台湾籍民 男 109 : 女 55 | | |
| 1 農耕園芸畜産 | 9 : 2 | 0 : 1 |
| 5 漁業製塩業 | 1 : 0 | 0 : 0 |
| 6 漁業製塩業労働者 | 1 : 0 | 0 : 0 |
| 7 採鉱冶金業 | 1 : 0 | 1 : 1 |
| 15 洗張，染色，洗濯業 | 1 : 0 | 0 : 2 |
| 18 木，竹類に関する製造 | 1 : 0 | 0 : 1 |
| 19 飲食料品嗜好品製造 | 1 : 0 | 2 : 2 |
| 20 被服，身廻り品製造 | 1 : 3 | 0 : 2 |
| 21 土木建築業 | 3 : 0 | 0 : 0 |
| 22 大工左官石工ベンキ職 | 1 : 0 | 1 : 1 |
| 23 製版，印刷，製本業 | 7 : 0 | 7 : 6 |
| 26 その他の工業 | 1 : 0 | 0 : 0 |
| 28 物品販売業 | 47 : 3 | 15 : 42 |
| 29 貿易業 (店員社員を含まず) | 32 : 0 | 2 : 11 |
| 33 会社員，銀行員，商店員，事務員 | 485 : 0 | 30 : 99 |
| 34 旅宿，料理，貸席及芸妓業，遊戯場，興業場 | 5 : 2 | 4 : 2 |
| 35 芸妓，娼妓，酌婦，其他 | 0 : 15 | 0 : 0 |
| 36 理髪，髪結，浴場業 | 4 : 2 | 2 : 3 |
| 39 鉄道従業者 | 1 : 0 | 1 : 2 |
| 43 運輸取扱業 | 2 : 0 | 1 : 1 |
| 45 陸海軍人 | 18 : 0 | 1 : 3 |
| 46 官公吏雇傭 | 31 : 1 | 3 : 9 |
| 47 宗教関係者 | 0 : 0 | 0 : 0 |
| 48 教育関係者 | 9 : 0 | 2 : 7 |
| 49 医務に関する業 | 13 : 3 | 12 : 17 |
| 51 新聞雑誌記者，通信員，著述者 | 13 : 1 | 3 : 5 |
| 52 画家，彫刻家，音楽家，写真師 | 5 : 0 | 7 : 3 |
| 53 其他の自由業 | 1 : 0 | 0 : 0 |
| 54 其他の有業者 | 1 : 0 | 0 : 0 |
| 56 家事被傭人 | 9 : 20 | 1 : 2 |
| 57 学生，練習生 | 7 : 0 | 0 : 0 |
| 60 其他の無職業者，職業を申告せざる者 | 7 : 6 | 3 : 9 |

上記領普通公第36号に添付の表(第42表)では、盤谷と記された欄のみが記入され、それ以外の地方の欄は空欄となっている。しかし、60分類の職業別人口を合計すると、本業者は男718:女58、家族は男98:女231、本業者・家族の合計は、1105人(男816:女289)となり、盤谷の内地人合計936人(男757:女179)より169人多い。

これから、上記第42表は、盤谷及び盤谷以外の内地人を全てカバーしていると考えられる。

外務省記録K.3.7.0/8「在外本邦人口統計関係一件」の第14巻に保存されている、在盤谷大使から外務大臣宛公電より、1941年8月から1942年1月までの在タイ本邦人の人口推移が判明する。それを集計して図示すると、次の通りである。

1941年8月-42年1月タイ国における本邦人数の推移

| | 内地人 盤谷+地方=合計 | 台湾人 盤谷+地方=合計 | 朝鮮人 盤谷+地方=合計 | 本邦人総計 |
|------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|
| 1941年8月1日 | 838+119=957 | 155+18=173 | 5+11=16 | 1146 |
| 1941年9月1日 | 875+111=986 | 151+17=168 | 5+11=16 | 1170 |
| 1941年11月1日 | 1002+113=1115 | 170+17=187 | 5+11=16 | 1318 |
| 1941年12月1日 | 1077+115=1192 | 169+17=186 | 5+11=16 | 1394 |
| 1942年1月1日 | 1146 | 172 | 5 | 1323 |

(出所:外務省記録K.3.7.0/8「在外本邦人口統計関係一件」第十四巻より筆者集計)

なお、1941年8月1日には、上記1146人の外に、一時滞在旅商人56人、船舶乗組員279人が在タイしていた。

日本の敗戦後、日本の軍人軍属は勿論、全ての日本民間人もシャム政府により抑留された(村嶋英治「日タイ関係1945-1952年:在タイ日本人及び在タイ日本資産の戦後処理を中心に」『アジア太平洋討究』創刊号、2000年参照)。

日本人抑留者の送還が開始される以前の在タイ日本人数(1946年5月1日現在)は、1946年6月22日付で第18方面軍司令部が第一復員省庶務課に提出した「戦史資料及暹羅情況提出の件」と題した文書から次のように判明する。

シャムより帰還輸送開始前に於ける日本軍人及び邦人左〔下〕の如し

総人員 111,068名

内 軍人軍属 107,438名

在留邦人 3,623名(朝鮮人241名台湾人599名を含まず)

英軍に抑留せられある者 1,703名

終戦後逃亡し逮捕せられあらざる者 291名

終戦後の行方不明者 330名

終戦後の死亡者 3,493名(防衛研究所資料 南西/泰仏印/1「泰方面部隊史実資料綴、昭和21年6月」)

上記の総人員数は、軍人軍属に在留邦人を加えた数だと思われるが、7名の差異がある。

1942年1月1日に1146人であった内地人は，1946年5月初めには3623人と3倍以上に増加し，同期間に台湾人も172人から599人に，朝鮮人は5人から241人に増加したことになる。

内地人，台湾人，朝鮮人を合計した本邦人数は，4463人となる。但し，この半数は，1945年4月以降にビルマから流入したようで，上記防衛研究所資料ファイル中にある「暹羅情況 第18方面軍司令部」文書は，次のように記している。

在留邦人は〔1945年〕4月頃まで約2000名なりしもランゲン失陥とともに急激に増加し終戦時は約4000名を超過しありき。在留邦人は10月上旬よりバンパトン（バンコク西北方40km）に抑留シヤム官憲の監視下に置かれ大使館員は大使以下バンコクに軟禁せられあり。

なお，バンパトン（バーン・ブアトーン）収容所に収容されたのは，内地人だけで，台湾人，朝鮮人は同所には収容されなかった。

タイのイギリス公使館の要請により，タイ福祉局が作成した1946年5月23日時点の「在タイ日本文民統計」は次のように記している。

- A. 日本大使館敷地に抑留中の者。外交関係者123人（成人男性70，成人女性24，16歳以下29）及び一般文民29（成人男性17，成人女性6，16歳以下6）
- B. バーン・ブアトーン収容所。外交関係者163人（成人男性126，成人女性32，16歳以下5）及び一般文民3286人（成人男性2670，成人女性320，16歳以下296）
- C. バンコク市内に居住2人（成人女性1，子供1）

総計では3603人（成人男性2883，成人女性383，16歳以下337）（前掲拙稿「日タイ関係1945-1952年：在タイ日本人及び在タイ日本資産の戦後処理を中心に」146頁）。

また，瀬戸正夫『悲惨な戦火に巻き込まれて』（自費出版，2019年）67頁は，バーン・ブアトーンに収容された日本人数は，3つのキャンプの合計で，3464名と記している。